

2024（令和6）年度
事業報告書

学校法人常磐大学

目 次

1 法人の概要	1
(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校, 学部, 学科等	2
(4) 学校, 学部, 学科等の状況	3
① 在籍者状況 (2024年5月1日現在)	3
② 入試状況 (2025年5月1日現在)	4
③ 進路状況 (2025年3月31日現在)	5
(5) 役員の概要 (2024・2025年5月1日現在)	8
(6) 評議員の概要 (2024・2025年5月1日現在)	9
(7) 職員の概要	10
① 教育職員数 (2024年5月1日現在)	10
② 事務職員数 (2024年5月1日現在)	10
2 事業の概要	10
(1) 2024年度事業報告	10
学校法人常磐大学	10
常磐大学	15
常磐短期大学	23
常磐大学高等学校	29
智学館中等教育学校	32
常磐大学幼稚園	35
(2) 2024年度主要行事	37
3 財務の概要	38
(1) 事業活動収支計算書関係比率	38
(2) 貸借対照表関係比率	39
(3) 経営上の成果と課題	40
4 施設設備整備の概要	40
(1) 施設設備整備事業実施の位置図	40

1 法人の概要

(1) 建学の精神 「実学を重んじ、真摯な態度を身につけた人間を育てる」

ビジョン (2024-2028)

学校法人常磐大学は一人ひとりの幸せを大切にし、地域・社会の未来に貢献します

- 1 [教育・研究・学修者支援]
- 2 [地域連携・国際教育・進路支援]
- 3 [財務・施設設備・人材・管理運営・広報]

常磐大学・常磐短期大学【教育の理念】

「自立」「創造」「真摯」

常磐大学高等学校【校訓】

「頼れる自分になる 正しい自分になる 豊かな自分になる」

智学館中等教育学校【教育の基本理念】

「人間の尊厳を大切にし、世界的視野で考え行動できる人になる」

常磐大学幼稚園【教育目標】

「健康で、明るい子」「よく考え、工夫する子」「みんなと仲よく遊べる子」

「自分から進んで活動にうちこめる子」

(2) 学校法人の沿革 (2025年4月1日現在)

1909 (明治42) 年	11月	小田木 (諸澤) みよ	水戸市馬口労町に裁縫教授所を開設
1922 (大正11) 年	4月	水戸常磐女学校を開校	
1935 (昭和10) 年	4月	常磐高等女学校を開校	
1948 (昭和23) 年	4月	学制改革により総合制の常磐女子高等学校を開校 (普通科, 被服科, 商業科, 別科)	
1951 (昭和26) 年	3月	私立学校法により学校法人常磐学園設置認可	
1966 (昭和41) 年	1月	常磐学園短期大学設置認可	
	4月	常磐学園短期大学を開学 (家政科家政専攻, 家政科食物栄養専攻)	
1968 (昭和43) 年	4月	常磐学園短期大学幼児教育科を設置	
1969 (昭和44) 年	12月	常磐学園短期大学附属幼稚園設置認可	
1970 (昭和45) 年	4月	常磐学園短期大学附属幼稚園を開園	
1975 (昭和50) 年	4月	常磐学園短期大学教養科を設置	
1983 (昭和58) 年	1月	常磐大学設置認可	
	4月	常磐大学を開学 (人間科学部人間関係学科, 人間科学部コミュニケーション学科)	
1987 (昭和62) 年	4月	常磐学園短期大学の学科名称変更 (教養科を教養学科, 幼児教育科を幼児教育学科, 家政科家政専攻を生活科学科生活科学専攻, 家政科食物栄養専攻を生活科学科食物栄養専攻)	
1988 (昭和63) 年	4月	常磐大学人間科学部組織管理学科を設置	
1989 (平成元) 年	4月	常磐大学大学院人間科学研究科人間科学専攻修士課程を設置	
1990 (平成2) 年	4月	常磐学園短期大学を常磐大学短期大学部に名称変更し, 男女共学化 常磐大学短期大学部経営情報学科を設置 常磐学園短期大学附属幼稚園を常磐大学短期大学部附属幼稚園に名称変更	
1993 (平成5) 年	4月	常磐大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士課程 (後期) を設置	
1996 (平成8) 年	4月	常磐大学国際学部を設置 (国際協力量科, 国際ビジネス学科)	
1999 (平成11) 年	4月	常磐大学短期大学部を常磐短期大学に名称変更 常磐大学短期大学部附属幼稚園を常磐短期大学附属幼稚園に名称変更	
2000 (平成12) 年	4月	常磐大学コミュニティ振興学部を設置 (コミュニティ文化学科, ヒューマンサービス学科) 常磐女子高等学校を常磐大学高等学校に名称変更し, 男女共学化	
2002 (平成14) 年	4月	常磐短期大学の幼児教育学科を幼児教育保育学科に名称変更	
2003 (平成15) 年	4月	常磐短期大学教養学科, 経営情報学科を募集停止 常磐短期大学キャリア教養学科を設置	

2004（平成16）年	4月	常磐大学大学院コミュニティ振興学研究科コミュニティ振興学専攻修士課程を設置 常磐大学人間科学部人間関係学科，組織管理学科および国際学部国際協力学科，国際ビジネス学科を募集停止 常磐大学人間科学部心理教育学科，現代社会学科および国際学部国際関係学科（国際協力学専攻，国際ビジネス学専攻），英米語学科を設置
	12月	常磐短期大学経営情報学科を廃止
2005（平成17）年	1月	学校法人常磐学園を学校法人常磐大学に名称変更
	4月	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻修士課程を設置 常磐短期大学附属幼稚園を常磐大学幼稚園に名称変更
2006（平成18）年	3月	常磐短期大学教養学科を廃止
	4月	常磐大学コミュニティ振興学部地域政策学科を設置
2007（平成19）年	11月	智学館中等教育学校設置認可
2008（平成20）年	4月	常磐大学人間科学部心理教育学科，国際学部国際関係学科（国際協力学専攻，国際ビジネス学専攻）を募集停止 常磐大学人間科学部心理学科，教育学科，健康栄養学科および国際学部経営学科を設置 常磐短期大学生活科学科食物栄養専攻，生活科学科生活科学専攻を募集停止
	4月	智学館中等教育学校を開校
2009（平成21）年	3月	常磐短期大学生活科学科を廃止 常磐大学国際学部国際ビジネス学科を廃止
	12月	常磐大学人間科学部人間関係学科を廃止
2010（平成22）年	3月	常磐大学人間科学部組織管理学科および国際学部国際協力学科を廃止
2013（平成25）年	3月	常磐大学人間科学部心理教育学科を廃止
	4月	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻博士課程（後期）を設置
2014（平成26）年	3月	常磐大学国際学部国際関係学科を廃止
2015（平成27）年	4月	常磐大学幼稚園が認定こども園（幼稚園型）に認定
2016（平成28）年	4月	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻博士課程（後期），修士課程，およびコミュニティ振興学研究科コミュニティ振興学専攻修士課程を募集停止
2017（平成29）年	4月	常磐大学国際学部を募集停止（経営学科，英米語学科） 常磐大学コミュニティ振興学部を募集停止（コミュニティ文化学科，地域政策学科，ヒューマンサービス学科） 常磐大学総合政策学部を設置（経営学科，法律行政学科，総合政策学科）
2018（平成30）年	3月	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻博士課程（後期），修士課程，およびコミュニティ振興学研究科コミュニティ振興学専攻修士課程を廃止
	4月	常磐大学看護学部を設置（看護学科）
2020（令和2）年	5月	常磐大学国際学部英米語学科を廃止
2021（令和3）年	5月	常磐大学コミュニティ振興学部地域政策学科を廃止
	9月	常磐大学コミュニティ振興学部を廃止（コミュニティ文化学科，ヒューマンサービス学科）
2022（令和4）年	3月	常磐大学国際学部を廃止（経営学科）
	4月	常磐大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程を設置
2023（令和5）年	4月	常磐短期大学キャリア教養学科，智学館中等教育学校を募集停止
2024（令和6）年	5月	常磐短期大学キャリア教養学科を廃止
2025（令和7）年	4月	常磐大学幼稚園を幼保連携型認定こども園常磐大学こども園に変更

（3）設置する学校，学部，学科等（2025年3月31日現在）

	研究科・学部	学科・専攻	設置認可日等	所在地等	
常磐大学 大学院	人間科学研究科	人間科学専攻	博士課程（後期） 修士課程	1993年3月19日 1989年3月17日	茨城県水戸市見和1丁目430番地の1 TEL:029-232-2511 FAX:029-231-6078 https://www.tokiwa.ac.jp/
		心理学科		2008年4月1日	
教育学科		2008年4月1日			
現代社会学科		2004年4月1日			
常磐大学	人間科学部	コミュニケーション学科		1983年1月17日	

		健康栄養学科	2007年12月3日	桜の郷キャンパス(看護学部) 茨城県東茨城郡茨城町桜の郷208 TEL:029-297-6251 FAX:029-297-6252
	総合政策学部	経営学科	2017年4月1日	
		法律行政学科	2017年4月1日	
		総合政策学科	2017年4月1日	
看護学部	看護学科	2018年4月1日		
常磐短期大学		キャリア教養学科	2002年7月30日	茨城県水戸市見和1丁目430番地の1 TEL:029-232-2511 FAX:029-231-6078 https://www.tokiwa.ac.jp/
		幼児教育保育学科	1968年2月3日	
常磐大学高等学校			1922年4月1日	茨城県水戸市新荘3丁目2番28号 TEL:029-224-1707 FAX:029-224-6579 https://www.tokiwa.ac.jp/~tokikou/
智学館中等教育学校			2007年11月1日	茨城県水戸市小吹町2092 TEL:029-212-3311 FAX:029-212-3300 https://www.tokiwa.ac.jp/~chigakukan/
常磐大学幼稚園			1969年12月24日	茨城県水戸市見和1丁目425番地 TEL:029-232-2680 FAX:029-232-2824 https://www.tokiwa.ac.jp/~youchien/

(4) 学校、学部、学科等の状況

① 在籍者状況(2024年5月1日現在)

常磐大学大学院

研究科	専攻・課程		収容定員	在籍者数	定員充足率
人間科学研究科	人間科学専攻	博士課程(後期)	6	0	0.0%
		修士課程	20	9	45.0%
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	12	17	141.7%
合計			38	26	68.4%

常磐大学

学部	学科・専攻	収容定員	在籍者数	定員充足率
人間科学部	心理学科	360	405	112.5%
	教育学科	272	303	111.4%
	現代社会学科	360	394	109.4%
	コミュニケーション学科	280	238	85.0%
	健康栄養学科	320	306	95.6%
	小計	1,592	1,646	103.4%
総合政策学部	経営学科	340	351	103.2%
	法律行政学科	300	305	101.7%
	総合政策学科	340	338	99.4%
	小計	980	994	101.4%
看護学部	看護学科	320	350	109.4%
	小計	320	350	109.4%
合計		2,892	2,990	103.4%

常磐短期大学

学科	収容定員	在籍者数	定員充足率
キャリア教養学科	—	—	—
幼児教育保育学科	240	203	84.6%
合計	240	203	84.6%

常磐大学高等学校

収容定員	在籍者数	定員充足率
1,320	1,090	82.6%

智学館中等教育学校

収容定員	在籍者数	定員充足率
480	62	12.9%

常磐大学幼稚園

収容定員	在籍者数	定員充足率
175	148	84.6%

過去5年間の在学者数（収容定員充足率）推移

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
大学院	18 (69.2%)	19 (73.0%)	19 (59.4%)	23 (60.5%)	26 (68.4%)
大学	2,892 (102.8%)	3,068 (106.0%)	3,137 (108.5%)	3,028 (104.7%)	2,990 (103.4%)
短期大学	415 (86.4%)	377 (78.5%)	341 (71.0%)	269 (74.7%)	203 (84.6%)
高等学校	1,109 (84.0%)	1,143 (86.5%)	1,198 (90.8%)	1,167 (88.4%)	1,129 (85.5%)
中等教育学校	138 (19.2%)	131 (18.2%)	125 (17.4%)	93 (15.5%)	62 (12.9%)
幼稚園	172 (98.2%)	167 (95.4%)	162 (92.6%)	154 (88.0%)	148 (84.6%)
合計	4,744 (85.7%)	4,905 (87.3%)	4,982 (88.7%)	4,734 (88.0%)	4,558 (88.6%)

② 入試状況（2025年5月1日現在）

常磐大学大学院

<2025年度>

研究科	専攻・課程		入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率	<2024年度>	
							志願者数	入学者数
人間科学研究科	人間科学専攻	博士課程（後期）	2	0	0	0.0%	0	0
		修士課程	10	13	5	50.0%	11	4
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	6	3	2	33.3%	7	7
合計			18	16	7	38.9%	18	11

<2024年度>

常磐大学

<2025年度>

学部	学科・専攻	入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率	<2024年度>		
						志願者数	入学者数	
人間科学部	心理学科	90	193	105	116.7%	254	110	
	教育学科 初等教育コース 中等教育コース	50	91	56	112.0%	90	45	
		16	70	31	193.8%	66	32	
	現代社会学科	90	169	98	108.9%	154	93	
	コミュニケーション学科	70	103	63	90.0%	107	60	
	健康栄養学科	80	108	73	91.3%	135	86	
	小計	396	734	426	107.6%	806	426	
	3年次編入学	教育学科 初等教育コース 中等教育コース	2	3	3	150.0%	0	0
			2	0	0	0.0%	1	1
		コミュニケーション学科	若干名	2	2	—	4	3
小計	—	5	5	—	5	4		
2年次転入学	教育学科 初等教育コース	若干名	1	1	—	—	—	
	小計	—	1	1	—	—	—	
総合政策学部	経営学科	85	189	108	127.1%	181	82	
	法律行政学科	75	136	78	104.0%	113	68	
	総合政策学科	85	122	74	87.1%	128	83	
	小計	245	447	260	106.1%	422	233	
	2年次転入学	総合政策学科	若干名	2	2	—	—	—
		小計	—	2	2	—	—	—
	3年次転入学	法律行政学科	若干名	1	1	—	—	—
小計		—	1	1	—	—	—	
看護学部	看護学科	80	194	86	107.5%	218	99	
	小計	80	194	86	107.5%	218	99	
合計		721	1,375	772	107.1%	1,446	758	
	3年次編入学 合計	—	5	5	—	5	4	
	2年次転入学 合計	—	3	3	—	—	—	
	3年次転入学 合計	—	1	1	—	—	—	

<2024年度>

常磐短期大学

<2025 年度>

<2024 年度>

学科	入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率	志願者数	入学者数
幼児教育保育学科	120	86	83	69.2%	113	106
合 計	120	86	83	69.2%	113	106

常磐大学高等学校

<2025 年度>

<2024 年度>

入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率	志願者数	入学者数
400	1,605	356	89%	1,536	362

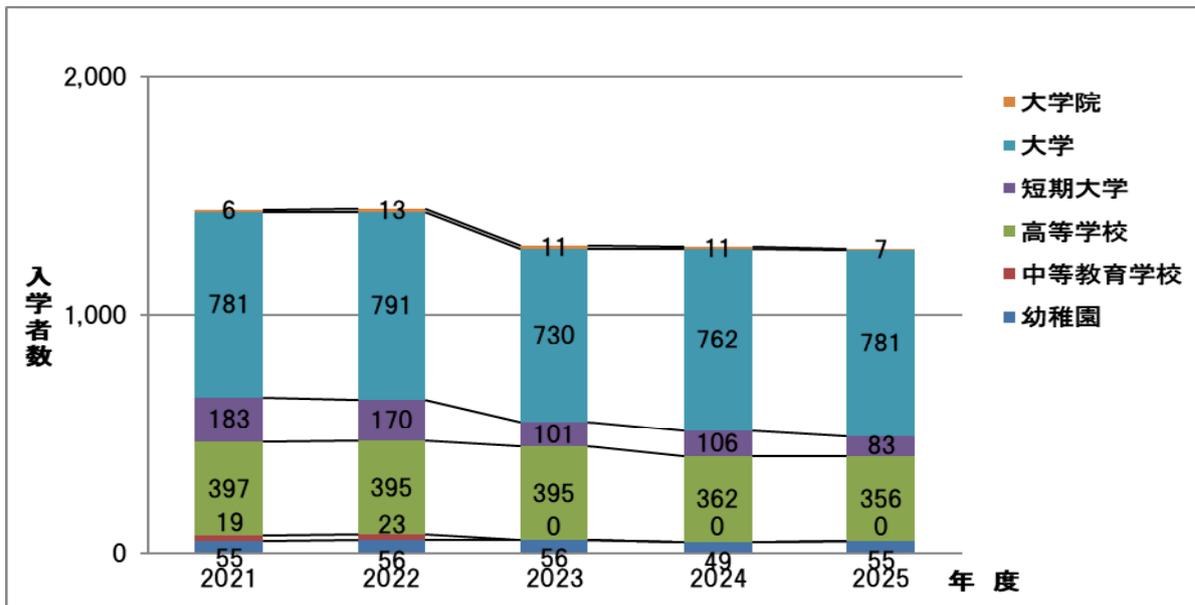
常磐大学こども園

<2025 年度>

<2024 年度>

	募集人員	志願者数	入園者数	募集人員充足率	志願者数	入園者数
0 歳児	3	1	1	33.3%		
1 歳児	10	10	9	90.0%		
2 歳児	10	11	10	100.0%		
満 3 歳児	6	11	6	100.0%		
3 歳児	30	34	28	93.3%	48	46
4 歳児	若干名	2	1	-	3	3
5 歳児	若干名	0	0	-	0	0
合 計		69	55		51	49

過去 5 年間の入学者数推移



③ 進路状況 (2025 年 3 月 31 日現在)

常磐大学大学院

<2024 年度>

研究科・課程	修了者	就職希望者	就職者	就職率
人間科学研究科 (博士)	0	0	0	—
人間科学研究科 (修士)	5	5	5	100.0%
看護学研究科 (修士)	4	4	4	100.0%

<2023 年度>

修了者	就職希望者	就職者	就職率
0	0	0	—
7	6	5	83.3%
1	1	1	100.0%

【就職】 医療法人社団有朋会 こころのクリニック水戸、児童発達支援・放課後等デイサービス こどもサークル鹿嶋緑ヶ丘、医療法人永朋会 きもとメンタルクリニック

常磐大学・常磐短期大学

<2024 年度>

学部・学科・選考		卒業生	就職希望者	就職者	就職率
人間科学部	心理学科	80	72	69	95.8%
	教育学科	86	80	78	97.5%
	現代社会学科	92	87	87	100.0%
	コミュニケーション学科	61	49	46	93.9%
	健康栄養学科	78	74	74	100.0%
	人間科学部計	397	362	354	97.8%
総合政策学部	経営学科	78	73	73	100.0%
	法律行政学科	66	59	57	96.6%
	総合政策学科	72	66	65	98.5%
	総合政策学部計	216	198	195	98.5%
看護学部	看護学科	87	81	80	98.8%
	看護学部計	87	81	80	98.8%
大学計		700	641	629	98.1%
キャリア教養学科		—	—	—	—
幼児教育保育学科		90	82	82	100.0%
短期大学計		90	82	82	100.0%

<2023 年度>

卒業生	就職希望者	就職者	就職率
90	78	75	96.2%
68	63	62	98.4%
96	88	88	100.0%
60	51	49	96.1%
81	78	77	98.7%
395	358	351	98.0%
84	80	80	100.0%
75	68	65	95.6%
86	79	79	100.0%
245	227	224	98.7%
77	70	70	100.0%
77	70	70	100.0%
717	655	645	98.5%
56	49	48	98.0%
104	95	95	100.0%
160	144	143	99.3%

大学 ※主な就職先

【民間企業】アール・エム/アイ・イー・シー/IHS/愛保育園/アインファーマシーズ/アインホールディングス/昱/旭化成アドバンス/朝日生命保険相互会社/APAグループ/アプリシエイト/有明病院/アルテンジャパン/イオンフィナンシャルサービス/石岡市社会福祉協議会/茨城県厚生農業協同組合連合会/総合病院水戸協同病院/茨城県信用組合/茨城県西部メディカルセンター/茨城県立こども病院/茨城交通/茨城スバル自動車/茨城セキスイハイム/茨城ダイハツ販売/茨城トヨタ自動車/茨城トヨペット/茨城日産自動車/茨城東病院/上の原学園/ウエルシア薬局/牛久愛和総合病院/内原深敬寮/エイジェック/エー・ピーホールディングス/NSW/エフィラグループ/エン・ジャパン/笠間市農業公社/柏厚生総合病院/カスミ/霞ヶ浦医療センター/株木建設/川崎幸病院/カワチ薬品/キーボックス/キタセキ/キャン/協和日成/クスリのアオキ/栗原医療器械店/グリムス/小泉/コクミン/コスモス薬品/コメリ/サンクゼール/サンユースター/三和/JA茨城エネルギー/敷島製パン/自治医科大学附属病院/志村大宮病院/ジョイパック/常陽銀行/スズキ自販茨城/鈴縫工業/スプリックス/生活協同組合パルシステム神奈川/征峯会/生和コーポレーション/関彰商事/セコム/セントケア・ホールディング/セントラルフード/総合キャリアオプション/第一興商/第一生命保険/泰榮エンジニアリング/大末建設/大都技研/タイヨー/高萩市社会福祉協議会/タナカ/千葉大学医学部附属病院/筑波記念病院/筑波銀行/筑波大学附属病院/筑波メディカルセンター病院/テラソフト/でんきち/東急建設/東京医療センター/常磐システムエンジニアリング/常磐大学/ドコモCS/トヨタカローラ新茨城/トヨタレンタリース茨城/虎の門病院/どろんこ会/ナブコシステム/西山運輸機工/日研トータルソーシング/日清医療食品/ニッポンレンタカー東関東/日本医科大学付属病院/日本システム・エイト/日本赤十字社水戸赤十字病院/ネクステージ/ネットトヨタ水戸/ノーブルホーム/パーソルテンプスタッフ/長谷工リアルエステート/東日本三菱自動車販売/東日本旅客鉄道株式会社/日立梅ヶ丘病院/日立総合病院/ひたちなか総合病院/ビックカメラ/ブイテックス/フジコー/フジタビジネスマシナズ/ブリヂストンタイヤソリューションジャパン/ベストフードサービス/北養会/マーキュリー/マツモトキョシ/松屋フーズ/マルト/水戸医療センター/水戸京成百貨店/水戸済生会総合病院/水戸市社会福祉協議会/水戸証券/水戸信用金庫/水戸農業協同組合/水戸ヤクルト販売/ミニストップ/ミネベアパワーデバイス/めぶきリース/Monotaro/やさと農業協同組合/八潮中央総合病院/山新/結城信用金庫/勇成会/ユードム/ヨークベニマル/淀川食品/リコージャパン/レプロエンタテインメント/ロジスティード東日本/ワールドインテック

【公務員】阿見町役場/茨城県警察本部/茨城県庁/茨城県立医療大学付属病院/茨城県立中央病院/笠間市消防本部/鹿嶋市役所/かすみがうら市役所/神栖市役所/北茨城市役所/警視庁/厚生労働省茨城労働局/高萩市役所/千葉県庁/東金市役所/那珂市役所/那須烏山市役所/常陸太田市役所/日立市消防本部/日立市役所/ひたちなか市役所/防衛省陸上自衛隊/銚田市役所/蕨市役所/茨城県公立学校/福島県公立学校/千葉県公立学校/新潟県公立学校

短期大学 ※主な就職先

【保育園・幼稚園・認定こども園】アートチャイルドケア/愛友福祉会/アイリス保育園/青山こども園/あかつき保育園/あさひまちなか保育園/あゆみ園/池の川幼稚園/石岡ひまわり保育園/茨城県道心園/認定こども園いばらき幼稚園・いばらき中央認定こども園/うちはらスワン保育園/オークス・ウェルフェア/勝田あすなろ保育園/勝田すみれ保育園/旭保育園/グローバルキッズ/御前山認定こども園/こどものいえ認定こども園/こぼとりパティール保育園/こぼと保育園/四季の杜保育園/聖泉福祉会/千波保育園/チルドレンズ・ホーム/筑波匠仁会/同仁会子どもホーム/同仁会乳児院/同仁東保育園/認定こども園あさひ幼稚園/認定こども園大塚ひのまる幼稚園/認定こども園くりのみ自然幼稚園/認定こども園下館聖母/認定こども園すみれこども園/認定こども園利根大和幼稚園/認定こども園納場保育園/認定こども園ばらき台幼稚園/認定こども園ひがしなるさわ幼稚園/認定こども園星の宮幼稚園/はぐくみの森あさひ保育園/ひかり保育園/ひので保育園/法泉寺保育園/ほうとく保育園/みぎわ保育園/三つ葉幼稚園/みらいのもり保育園/柳沢保育園/吉田幼稚園/らいらつく保育園/ルンビニー学園/わかかな保育園

【公務員】日立市公立幼稚園・保育所/稲敷市公立幼稚園・保育所

常磐大学高等学校

<2024 年度>

進路先		卒業生	比率
大学	国公立大学	27	7.1%
	常磐大学	95	25.0%
	他私立大学	179	47.1%
	小計	301	79.2%
短期大学	公共産業能力開発校	9	2.4%
	公立短期大学	1	0.2%
	常磐短期大学	10	2.6%
	他私立短期大学	4	1.0%
	小計	24	6.3%
専門学校	専門学校	25	6.6%
	医療系専門学校	11	2.9%
	小計	36	9.4%
就職	4	1.0%	
その他	15	3.9%	
合計	380	100.0%	

<2023 年度>

卒業生	比率
18	4.7%
92	24.2%
171	45.1%
281	74.1%
0	0.0%
0	0.0%
14	3.7%
4	1.1%
18	4.7%
35	9.2%
28	7.4%
63	16.6%
6	1.6%
11	2.9%
379	100.0%

※主な進路先

【国公立大学】茨城大学/茨城県立医療大学/宮城教育大学/福島大学/宇都宮大学/山梨大学/国際教養大学/宮城大学/秋田県立大学/会津大学/高崎経済大学/群馬県立女子大学/東京都立大学/都留文科大

【私立大学】アール医療専門職大学/青山学院大学/足利大学/亜細亜大学/茨城キリスト教大学/植草学園大学/桜美林大学/大阪総合保育大学/大妻女子大学/学習院大学/神奈川大学/亀田医療大学/神田外語大学/関東学院大学/北里大学/京都精華大学/共立女子大学/慶應義塾大学/工学院大学/國學院大学/国際医療福祉大学/国際武道大学/国際ファッション職専門大学/国士舘大学/駒澤大学/秀明大学/淑徳大学/順天堂大学/尚絅学院大学/昭和女子大学/城西大学/杉野服飾大学/駿河台大学/聖徳大学/専修大学/創価大学/大正大学/大東文化大学/拓殖大学/玉川大学/千葉工業大学/中央学院大学/中央大学/津田塾大学/つくば国際大学/帝京大学/帝京科学大学/帝京平成大学/デジタルハリウッド大学/東海大学/東京有明医療大学/東京医療保健大学/東京工科大学/東京工芸大学/東京国際大学/東京電機大学/東京都市大学/東京保健医療専門職大学/東京未来大学/東北芸術工科大学/東北福祉大学/東洋大学/東洋学園大学/常磐大学/獨協大学/獨協医科大学/名古屋造形大学/日本ウェルネススポーツ大学/日本女子体育大学/日本大学/白鷗大学/東日本国際大学/文化学園大学/文教大学/文京学院大学/平成国際大学/法政大学/武蔵大学/武蔵野大学/明海大学/明治大学/明治学院大学/明星大学/山梨学院大学/流通経済大学/麗澤大学/和洋女子大学/Taylor's University

【私立短期大学】大妻女子大学短期大学部/埼玉東萌短期大学/常磐短期大学/日本大学短期大学部/山野美容芸術短期大学

【公立短期大学】静岡県立大学短期大学部

【公共産業能力開発校】茨城県立産業技術短期大学校/茨城県立水戸産業技術専門学院/関東職業能力開発大学校

【専門学校】アジア動物専門学校/茨城理容美容専門学校/大原ビジネス公務員専門学校水戸校/大宮ビューティー&ブライダル専門学校/窪田理容美容専門学校/国際テクニカル美容専門学校/つくば栄養医療調理製菓専門学校/つくば国際ペット専門学校/東京ウェディング&ブライダル専門学校/東京美容専門学校/東京ベイカレッジ/東京ベルエポック美容専門学校/東京リゾート&スポーツ専門学校/トヨタ東京自動車大学校/日本外国語専門学校/パリ総合美容専門学校柏校/文化デザイナー学院/水戸情報ITクリエイター専門学校/水戸ビューティーカレッジ/リリーこども&スポーツ専門学校

【医療系専門学校】茨城県立中央看護専門学校/茨城歯科専門学校/千葉・柏リハビリテーション学院/水戸看護専門学校/水戸メディカルカレッジ

【就職】江沼電機/株式会社東洋電興/鮪田中/住友林業ホームエンジニアリング株式会社

智学館中等教育学校

<2024 年度>

進路先		卒業生	比率
大学	国公立大学	1	7.1%
	常磐大学	1	7.1%
	他私立大学	11	78.6%
	小計	13	92.9%

<2023 年度>

卒業生	比率
3	14.3%
2	9.5%
14	66.6%
19	90.4%

短期大学	常磐短期大学	0	0.0%	0	0.0%
	他私立短期大学	1	7.1%	0	0.0%
	小計	1	7.1%	0	0.0%
専門学校	医療系専門学校	0	0.0%	1	4.8%
	小計	0	0.0%	0	0.0%
その他		0	0.0%	1	4.8%
合 計		14	100.0%	21	100.0%

【国立大学】筑波大学

【私立大学】関東学院大学/北里大学/群馬パース大学/女子栄養大学/清泉女子大学/千葉工業大学/常磐大学/日本大学/法政大学/立教大学/流通経済大学/早稲田大学

【私立短期大学】茨城女子短期大学

(5) 役員概要

定員数 理事 10名～13名, 監事 2名 現員数 理事 11名, 監事 2名

区 分	2025年5月1日現在			2024年5月1日現在		
	氏 名 (就任年月日)	常・非	主な現職等	氏 名 (就任年月日)	常・非	主な現職等
理 事 長	小櫃 重秀 (2019年4月1日)	常勤		小櫃 重秀 (2019年4月1日)	常勤	
理 事	下村 裕 (2025年4月1日)	常勤	常磐大学・常磐短期大学学長	富田 敬子 (2019年4月1日)	常勤	常磐大学・常磐短期大学学長
	中崎 啓子 (2017年4月1日)	非常勤	常磐短期大学同窓会みわの会 会長	中崎 啓子 (2017年4月1日)	非常勤	常磐短期大学同窓会みわの会 会長
	加藤 高藏 (2021年4月1日)	非常勤	明利酒類(株) 代表取締役	加藤 高藏 (2021年4月1日)	非常勤	明利酒類(株) 代表取締役
	太田 敦 (2025年4月1日)	非常勤	(株)スノーピーク 経営企画部シニア マネージャー	柴原 宏一 (2023年4月1日)	常勤	常磐大学特任教授, 元茨城県教育長
	幡谷 信勝 (2013年1月31日)	非常勤	元茨城県信用組合 副理事長	幡谷 信勝 (2013年1月31日)	非常勤	元茨城県信用組合 副理事長
	富田 敬子 (2025年4月1日)	常勤	常磐大学特任教授, 茨城県教育委員	下村 裕 (2024年4月1日)	非常勤	慶應義塾大学 教授
	小櫃 重秀 (2014年4月1日) 〔再 掲〕	常勤		小櫃 重秀 (2014年4月1日) 〔再 掲〕	常勤	
	柴原 宏一 (2025年4月1日)	常勤	常磐大学特任教授			
	横須賀 敬章 (2015年3月1日)	常勤	(学)常磐大学 事務局長	横須賀 敬章 (2015年3月1日)	常勤	(学)常磐大学 事務局長
	大槻 行徳 (2019年3月1日)	常勤	(学)常磐大学 経営企画推進室 室長	大槻 行徳 (2019年3月1日)	常勤	(学)常磐大学 経営企画推進室 室長
辻 武晴 (2025年4月1日)	常勤		安藤 昌俊 (2023年1月1日)	常勤		
監 事	若山 実 (2005年6月1日)	非常勤	税理士, 若山実税理士事務所	若山 実 (2005年6月1日)	非常勤	税理士, 若山実税理士事務所
	安達 洋 (2024年6月1日)	非常勤	丸紅(株)	荒川 誠司 (2003年4月1日)	非常勤	弁護士, 荒川法律事務所

(6) 評議員の概要

定員数 21名～27名 現員数 24名

区 分	2025年5月1日現在		2024年5月1日現在	
	氏 名 (就任年月日)	主な現職等	氏 名 (就任年月日)	主な現職等
法人の職員	河野 敬一 (2021年5月27日)	常磐大学人間科学部教授	河野 敬一 (2021年5月27日)	常磐大学副学長
	柏 正則 (2021年4月1日)	常磐大学高等学校校長	柏 正則 (2021年4月1日)	常磐大学高等学校校長
	酒巻 洋一 (2020年3月1日)	常磐短期大学副学長	酒巻 洋一 (2020年3月1日)	常磐短期大学副学長
	水嶋 陽子 (2017年3月1日)	常磐大学人間科学研究科研究科長	水嶋 陽子 (2017年3月1日)	常磐大学人間科学研究科研究科長
	西野 光範 (2017年3月1日)	常磐大学学生支援センター統括	西野 光範 (2017年3月1日)	常磐大学学生支援センター統括
	吉武 政治 (2019年3月1日)	智学館中等教育学校校長	吉武 政治 (2019年3月1日)	智学館中等教育学校校長
卒業生	池田 正則 (2005年3月1日)	常磐大学同窓会会長	池田 正則 (2005年3月1日)	常磐大学同窓会会長
	中崎 啓子 (2007年4月1日)	常磐短期大学同窓会みわの会会長	中崎 啓子 (2007年4月1日)	常磐短期大学同窓会みわの会会長
	山根 将大 (2023年3月1日)	常磐大学高等学校同窓会役員	山根 将大 (2023年3月1日)	常磐大学高等学校同窓会役員
在学生の保護者	木村 勤 (2022年4月1日)	常磐大学後援会会長	木村 勤 (2022年4月1日)	常磐大学後援会会長
	立原 あゆみ (2024年4月1日)	常磐短期大学父母の会会長	立原 あゆみ (2024年4月1日)	常磐短期大学父母の会会長就任予定者
	堀川 宗愛 (2024年4月1日)	常磐大学高等学校PTA会長	堀川 宗愛 (2024年4月1日)	常磐大学高等学校PTA会長就任予定者
学識経験者	石渡 千恵子 (2007年4月1日)	石渡産婦人科病院副院長	石渡 千恵子 (2007年4月1日)	石渡産婦人科病院副院長
	師岡 文男 (2009年6月1日)	上智大学名誉教授	師岡 文男 (2009年6月1日)	上智大学名誉教授
	遠山 勤 (2010年3月26日)	元(株)常陽銀行顧問, 元(財)常陽地域研究センター理事長	遠山 勤 (2010年3月26日)	元(株)常陽銀行顧問, 元(財)常陽地域研究センター理事長
			柴原 宏一 (2021年4月1日)	常磐大学特任教授, 元茨城県教育長
	坂本 達哉 (2012年4月1日)	慶應義塾大学名誉教授	坂本 達哉 (2012年4月1日)	慶應義塾大学名誉教授
	内藤 学 (2021年4月1日)	水戸ヤクルト販売(株)代表取締役社長	内藤 学 (2021年4月1日)	水戸ヤクルト販売(株)代表取締役社長
	山口 正雄 (2015年4月1日)		山口 正雄 (2015年4月1日)	鉾田市教育委員会委員
	加藤 高藏 (2018年4月1日)	明利酒類(株)代表取締役	加藤 高藏 (2018年4月1日)	明利酒類(株)代表取締役
	太田 敦 (2023年4月1日)	(株)スノーピーク経営企画部シニアマネージャー	太田 敦 (2023年4月1日)	(株)スノーピーク経営企画部シニアマネージャー
	飛田 忠道 (2023年4月1日)	とびた耳鼻咽喉科院長	飛田 忠道 (2023年4月1日)	とびた耳鼻咽喉科院長
	米野 琢哉 (2023年4月1日)	国立病院機構水戸医療センター院長	米野 琢哉 (2023年4月1日)	国立病院機構水戸医療センター院長
	安藤 昌俊 (2025年4月1日)			

(7) 職員の概要

① 教育職員数 (2024年5月1日現在)

			人数
常磐大学 大学院	専任	教授	0
		准教授	0
		講師・助教	0
	小計		0
	非常勤		16
常磐大学	専任	教授	51
		准教授	48
		講師・助教	27
	小計		126
	非常勤		52
常磐短期 大学	専任	教授	5
		准教授	7
		講師・助教	2
	小計		14
	非常勤		8
常磐大学 高等学校	専任		83
	非常勤		15
智学館中等 教育学校	専任		29
	非常勤		3
常磐大学 幼稚園	専任		10
	非常勤		10
合計	専任		262
	非常勤		104

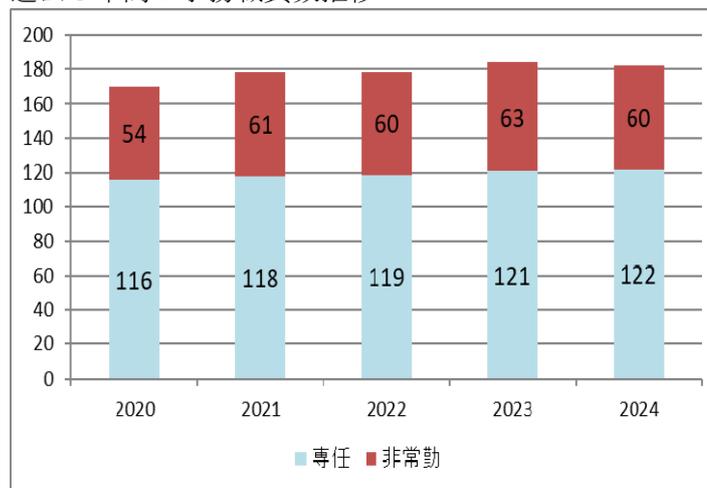
過去5年間の教育職員推移



② 事務職員数 (2024年5月1日現在)

			人数
常磐大学大学院 常磐大学 常磐短期大学	専任		113
	非常勤		43
常磐大学高等学校	専任		5
	非常勤		10
智学館中等 教育学校	専任		3
	非常勤		3
常磐大学幼稚園	専任		1
	非常勤		4
合計	専任		122
	非常勤		60

過去5年間の事務職員数推移



2 事業の概要

(1) 2024年度事業報告

【学校法人常磐大学】

1 人事政策

(1) 人材配置の適正化

① 適正な人事採用計画の実施

年齢構成の平準化等、適正な人材配置の実現に向けて、年度当初に策定した採用計画に基づき、採用活動を行った。

(2) 人材育成と組織力の強化

① 多様な教育研究活動を行うための仕組みや環境の整備

ア 個人研究費の適正な配分に向けた制度の検討

個人研究費に係る年間限度額の見直しを実施した。これまでの執行状況を鑑み、適切な額に限度額を引き下げることにより、予算執行率向上と研究資源の有効活用を図った。また、必要な研究費を確保に向け、学内研究助成の一つである「課題研究助成」の充実を進め、重点的かつ計画的な支援を行える体制を整備した。

イ 大学、短期大学教員以外の教職員を対象とした有給の長期研究休暇制度の整備

大学および短期大学に勤務する専任教員以外の職員を対象とした「学校法人常磐大学特別研修制度に関する規程」を新たに制定した。職員の資質向上を目的として、最大2年にわたる研修機会を提供する本制度の制定初年度には1名の応募があり、2025年度より開始となる長期の研修休暇を認めた。

② 労働環境のさらなる向上

ア ダイバーシティ推進に向けた取り組み

ダイバーシティの推進に向けた方針として「ダイバーシティ宣言」の策定準備を進めているが、いまだ学内調整の段階にあり、引き続き他大学の先行事例の収集および学内意見の整理に努めている。

イ ワークエンゲージメントスコアの導入に向けた検討

ワークエンゲージメントの可視化と職場環境の改善に資する指標として、ワークエンゲージメントスコアの導入に向けた検討を進めている。本学での活用方法など、実態を鑑みながら検討を継続する予定である。

(3) 人件費の適正化

① 社会経済情勢に基づいた基本給等の給与額の検討

教職員の給与について、国家公務員および茨城県職員の給与の動向を踏まえ、給与規則の見直しを行った。2023年の人事院勧告および茨城県人事委員会勧告に準拠し、特に初任給および若年層職員に重点を置いた基本給月額を増額改定を実施した。

また、法人が設置する全学校に勤務する非常勤講師の給与額についても、昨今の社会情勢を鑑みて、増額改定を行った。

② 私立大学退職金財団の加入者を対象とした退職金支給率の見直し

公益財団法人私立大学退職金財団における退職金交付水準は、国家公務員の自己都合退職に係る交付基準に準拠している。2017年の法改正により新たな基準が導入されたが、2025年3月31日を期限とする経過措置として、改正前の交付率を選択可能とする制度が設けられていた。本法人においてもこの経過措置を適用していたが、措置の終了に伴い、退職金支給規則の改正を行った。

③ 各種手当の見直し

2024年の人事院勧告および茨城県人事委員会勧告に準拠し、2025年度より扶養手当および付加手当について段階的な見直しを進める。賞与（期末手当・勤勉手当）についても同様に勧告に準拠し、引き上げを行う。

項目	目標	2024年度実績
有給休暇取得日数	10日以上	10.85日
時間外労働時間数（事務職員）	1カ月平均5.5時間以下/人	6.8時間/人

2 財務政策

(1) 事業活動収支差額の改善に向けた中期財務計画の推進

「TOKIWA VISION 2028」に合わせて策定した中期財務計画を推進するとともに、入試状況等を踏まえて収支の見直しを行った。事業活動収支差額の改善を図るべく、2025年度予算編成方針を掲げ、それに沿って予算編成作業を行った。

(2) 事業活動収入の安定的な確保

自己財源である学生生徒等納付金の確保と収入の多様化の推進

① 各設置学校入学定員の確保

各設置学校の在籍者状況等は「1 法人の概要－(4) 学校, 学部, 学科等の状況」にて詳細記載

項目	2023 年度実績	2024 年度実績
大 学	3,543,390,600 円	3,511,926,200 円
短 期 大 学	299,885,000 円	234,422,000 円
高 等 学 校	631,122,500 円	608,566,500 円
中 等 教 育 学 校	55,781,500 円	37,276,000 円
学生生徒等納付金収入計	4,530,179,600 円	4,392,190,700 円

*幼稚園は、2019年10月より無償化(すべて補助金扱い)

② 学生生徒等納付金の改定に向けた検討

国家公務員および茨城県職員の給与の動向等を踏まえた給与改定に伴う人件費の増加ならびに近年の光熱水費や物価の高騰などが本学の経営および教育研究に及ぼす影響等を勘案し、各設置学校の学生生徒等納付金の改定を検討した。その結果、常磐大学、常磐短期大学および常磐大学高等学校の授業料について、2025年度入学生から増額改定することを評議員会・理事会(2024年5月)で決定した。

③ 国庫・地方公共団体補助金の確保

項目	2023 年度実績	2024 年度実績
国 庫 補 助 金 収 入	595,960,503 円	663,727,106 円
地方公共団体補助金収入	535,405,684 円	495,616,246 円
施設型給付費収入	149,535,470 円	177,485,298 円
補助金収入計	1,280,901,657 円	1,336,828,650 円

④ 寄付募集に関する普及啓発活動の強化

ア 諸澤幸雄奨学金制度(給付型奨学金)への募金(2009年11月～)

募金額累計 (内 2024 年度)	124,352,398 円	(1,433,000 円)
募金件数累計 (内 2024 年度)	5,134 件	(193 件)

諸澤幸雄奨学金給付実績累計(内 2024 年度)

	I 種 奨学生	II 種 奨学生	給付額
大 学 院	1 人 (0 人)	0 人 (0 人)	180,000 円 (0 円)
大 学	127 人 (10 人)	60 人 (2 人)	*40,749,800 円 (1,999,850 円)
短 期 大 学	11 人 (0 人)	13 人 (1 人)	*5,723,300 円 (330,000 円)
高 等 学 校	29 人 (0 人)	11 人 (0 人)	2,804,160 円 (0 円)
中等教育学校	17 人 (1 人)	4 人 (0 人)	2,057,040 円 (24,000 円)
計	185 人 (11 人)	88 人 (3 人)	51,514,300 円 (2,353,850 円)

※緊急II種奨学生を含む

イ 常磐大学高等学校創立100周年募金(教育活動・学習支援のための環境整備資金)

(2022年4月～2032年3月)

募金額累計 (内 2024 年度)	10,016,000 円	(5,510,000 円)
募金件数累計 (内 2024 年度)	255 件	(73 件)

ウ 教育および学術研究の充実・発展のための募金（2009年11月～）

募金額累計	（内 2024年度）	85,452,751円	（7,982,380円）
募金件数累計	（内 2024年度）	189件	（15件）

⑤ 適正かつ効率的な資産運用による利息収入の確保

学校法人常磐大学資産運用規則を遵守の上、2024年度は新たに国内債券計3億円を購入した。保有済みの債券と合わせて、有価証券による利息収入8,079,344円を得た。（2023年度実績5,020,316円）

（3）適正かつ計画的な予算管理と事業活動支出の抑制

事業活動収支差額の均衡化を図るため、予算執行状況の検証および改善を通じて予算規模を最適化するとともに、より一層の経費支出抑制に取り組む

① 経常的経費支出の適正な執行管理

② 教育研究経費支出の適正な執行管理

2023年12月に導入した会計情報システムのサブシステムによる予算管理を本格稼働させた。経常的経費予算、教育予算、新規大口案件予算等の執行状況をリアルタイムで把握し、事業計画との照合や執行価格の検証等、適正な執行管理に取り組んだ。

項目	目標	2024年度実績
教育研究経費比率	33%以上	法人：37.2%（大学：37.0%・短期大学：40.0%）
管理経費比率	9%以下	法人：7.1%（大学：6.9%・短期大学：9.6%）
寄付金比率	0.4%以上	法人：0.3%
受取利息・配当金収入の拡大	前年比110%以上	法人：前年比162.8%

3 施設設備

（1）教育環境の整備

① 見和キャンパス B棟解体工事の実施

新B棟の竣工後に計画されていた旧B棟の解体工事を実施し、整地した。

（2）安全安心な環境の維持

① 法定建物定期調査の実施

建築基準法で定められている特定建築物の定期報告（3年ごと）を実施し、水戸市へ報告を行うとともに、非構造部材の耐震点検も実施し、安全性を確認した。

② B棟跡地駐車場整備工事の実施

旧B棟解体後の跡地に計画されていた駐車場整備工事を実施し、37台分の駐車スペースを確保した。

③ 見和キャンパス内借地購入

校地（Q棟用地）として借用していた土地を取得した。

位置 水戸市見和1丁目411-18,19

地目 山林

面積 1,124㎡

項目	目標	2024年度実績
整備計画実行率	100%	100%

4 管理運営

(1) 幼保連携型認定こども園への移行

2024年3月の理事会、評議員会の決定に従い、茨城県および水戸市への常磐大学幼稚園の廃止認可申請、常磐大学こども園の設置認可申請および文部科学省への幼稚園の廃止、こども園の設置に関する寄附行為の変更を行い、2025年4月1日より幼保連携型認定こども園常磐大学こども園へと移行した。

(2) キャンパス活用計画の検討

① 小吹キャンパス活用の計画策定

智学館中等教育学校閉校後の土地・施設設備の活用計画の策定を目的として、昨年度からの継続として年間計4回の検討会議を開催し検討を行った。

② 新荘キャンパス活用の計画検討

常磐大学高等学校創立100周年事業の一環として、新荘キャンパスの体育施設等の整備について年間計7回の検討会議を実施し、施設内容や配置について検討を行った。

(3) 私立学校法改正（2025年度）に伴う対応

① 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更および認可申請

私立学校法（2025年4月1日施行）の改正に伴い、学校法人常磐大学寄附行為の一部変更について9月の理事会、評議員会での決定を経て、文部科学省へ申請し2024年12月19日付けで認可された。

② 内部統制等に関する各種規程の制定および変更

私立学校法（2025年4月1日施行）の改正により、「理事の職務の執行が法令および寄附行為に適合することを確保するための体制他、学校法人の業務の適正を確保するために必要なものとして文部科学省令で定める体制の整備」が必要となることから、2025年1月の理事会、評議員会において「学校法人常磐大学内部統制システム整備の基本方針」を定めた。あわせて、本法人の役員および教職員が法令ならびに本法人の諸規程を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるために、常任理事会において「学校法人常磐大学コンプライアンス規程」を定めた。

(4) 法人内連携の充実

① 法人内連携企画の推進

年間をとおして継続的に学校間連携協議会を開催し、入試・広報・進路に関して情報共有を図るとともに、奨学金制度の現状と課題、情報発信の在り方や学校図書の在り方など、法人内で連携して取り組むべき事項について、各学校の責任者および担当者間で協議した。

② 智学館中等教育学校閉校後の卒業生支援体制の検討

2025年度中に閉校へ向けての検討会を立ち上げる予定である。

【常磐大学】

＜ディプロマ・ポリシー＞

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等を理解して広く深い教養と知識を学んだ後、社会や地域に貢献するための社会適応力および社会活動力を身につけた人材を養成します。

1. 目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)
2. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)
3. 集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)
4. プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)

＜カリキュラム・ポリシー＞

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等と養成したい学生像に基づき、全学生を対象とする科目とそれぞれの学部・学科の教育目標にあわせた科目を2つの大きな柱として、それぞれの学部・学科に合わせたカリキュラムを編成します。

1. 現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につけるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様でかつ調和のとれた教養教育を実施する。
2. 国際共通語としての英語に焦点を当て、一人ひとりが段階的に学べるように英語科目を編成する。
3. 大学での学びの基礎として、「読む・聴く」「書く・語る・伝える」「調べる」といった基本技法、統計によりデータを的確に集めてまとめる手法、そして、コンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するスキルが身につくための初年次教育を実施する。
4. 基礎・応用・発展を明確にするカリキュラム分類コードによる系統的な学習と、自由なカリキュラム構築による学際的な学習を実施する。
5. 問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。

＜アドミッション・ポリシー＞

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等を理解し、社会や地域に貢献するための社会適応力および社会活動力を身に付ける意欲のある人を求めます。

1. 本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶために必要な意欲と基礎学力を備えている。
2. 社会で求められる基礎能力、社会で活躍するために必要な応用能力、さらに基礎能力と応用能力の結合を通して、新たな課題に挑戦する発展的な能力を身に付ける意欲を持っている。
3. 人間や人間の発達、社会や地域にかかわる様々な問題に関心を持ち、広い視野と柔軟な思考によって課題解決に向けて積極果敢に取り組む意欲を持っている。
4. 本学で修得する教養と専攻領域の広く深い知識・スキルを駆使して、社会や地域に貢献しようという意志を持っている。

1 教育研究

(1) 教育の質の保証

① 全学的な教学マネジメントの確立

ア 学修成果の把握・評価に関する手法および指標等の点検・見直し

学校教育法施行規則第165条の2第2項の規定等を踏まえ、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー〈DP〉）と教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー〈CP〉）の一貫性の確保に特に意を用いつつ、各学科等が主体となって、次の各事項に取り組んだ。

- ・単位修得状況（GPAの分布状況を含む）の振り返りを通じた「成績の評価方法・基準」の点検
- ・成績評価基準・評価指標（ルーブリック）の点検・見直し

(2) 教育の内容と方法の充実

① カリキュラム・ポリシーに基づく体系的かつ組織的な教育課程の編成

ア 履修系統図（図形式・表形式）の点検・見直し

上記（1）における点検・見直しの結果を踏まえ、各学科等が主体となって、履修系統図（図形式・表形式）の点検・見直しに取り組んだ。

② 専門教育との関連を踏まえた教養教育

ア 学部共通科目（教養科目・キャリア教育科目）の充実

教養科目およびキャリア教育科目については、授業科目の成績分布確認の結果等を踏まえ、問題点の洗い出しを行うとともに、必要に応じて授業内容の見直しを行った。

また、常磐大学ディプロマ・ポリシー「2. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる」に基づき、TOKIWA VISION 2028 に沿ったアクションプラン「国際感覚を育む教育」を具現化するために、学部共通科目のカリキュラムの一部を変更し、「グローバル科目」を配置した（2026年度入学生から適用）。

イ 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの充実

本プログラムの自己点検・評価を行い、プログラムを構成する授業科目の講義内容・使用資料の見直しを検討した。

③ ICT を活用した教育の充実

ア ビデオ会議システムの活用

ビデオ会議システムの機能を拡張するために Google Workspace for Education plus（有償版）を導入し、これまで利用できなかった録画機能を用いた反復学習やブレイクアウトルーム機能を活用したグループワークの実施および 100 名以上の会議が可能となった。

イ 生成 AI の効果的な活用方法の検討

図書館において、「AI 時代の波に乗れ！」と題した生成 AI の活用を促す展示を行った。

(2024 年 6 月)

④ 国際感覚を育む教育

ア 資格課程の教育プログラムを活用した国際理解の促進

2024 年に「登録日本語教員」国家資格制度が創設されたことから、本学においても、2021 年度に文化庁より認定を受けた日本語教師養成課程を基に、養成課程申請の検討を行った結果、2026 年度入学生からの適用に向けて、文部科学省に「登録日本語教員養成機関」および「登録実践研修機関」の登録申請を行った。

イ トキワ de SDGs の推進

- ・ 諸活動の成果を「2023 年度 常磐大学 SDGs 関連事業報告書」に取りまとめ、本学ウェブサイトにおいて公表した。
- ・ 当該活動の成果をもとに、Times Higher Education (THE) 主催の「Impact Rankings 2024」にエントリーし、総合ランキングでは「スコア 50.3 (100 点満点)・ランク 1001~1500 位」、ゴール別では SDG3「すべての人に健康と福祉を」において「スコア 64.6・ランク 401~600 位」となった。
- ・ 地球市民教育 (Global Citizenship Education) の理論と実践をもとに、SDGs について理解を深め、身近なキャンパスライフの変容を目指してプロジェクト型学修に取り組むことに主眼を置いた授業科目 (プロジェクト A・C) を開講した。
- ・ 2024 年度「日本学生支援機構海外留学制度 (協定派遣)」に採択された「SDGs から LX (ローカル・トランスフォーメーション) へ～持続可能な地方の創出に貢献する人材育成派遣留学プログラム～」において、5 人の学生が、地域の課題解決に向けた調査研究等に取り組んだ。

(3) 研究活動の活性化

① 教員が不断に研究活動を行うための仕組みや環境の整備

ア 教育研究活動の活性化と外部資金獲得の促進

学内研究助成では、教学会議 (2024 年 6 月 28 日) において提案された「個人研究費の年間給付限度額等の見直しの方向性について」に基づき、「課題研究助成」を充実させることで、研究活動により一層の進展を促すため規程の一部変更を行った。主な変更点は次のとおりである。

- ・研究代表者として科学研究費助成事業へ申請し不採択となった研究で、次年度に同様の申請を行う研究を支援するための研究種目である「特別奨励研究助成」について、25年度以降、新たに「科研費獲得支援」と名称変更して支援を行うこと。
- ・大学教員の自由活発な研究を奨励するとともに、本学における教育の充実を目的として、個人研究費とは別に、25年度以降、「個別研究費助成」を設けること。
科学研究費助成事業では、制度等説明会の開催、個別相談等を通じて、申請の支援および奨励等に取り組んだ。

イ サバティカルの取得促進

希望者の積極的な把握、希望者に対する申請の促進、および適業者が担当している職務の取扱いの明示等を骨子とする基本方針（2022年度に提示）を踏まえ、全学的なサバティカルの取得促進に取り組んだ。

(4) 教育研究における法人内各学校との連携強化

① 常磐大学高等学校との連携に基づく教育プログラムの開発

ア 探究学習プログラムの開発支援

具体的な方策等については、検討段階にあり、着手・実施に至っていない。

イ 体験授業の実施

本学への理解を深め、志願者増を目途として、前年度に引き続き、模擬授業、模擬面接、大学説明等を計画。以下の取り組みを実施した。

- ・大学特別講座（特進コース2年生文系希望者175人程度を対象に実施）
- ・模擬面接（高校・智学館）
- ・大学説明会（高校/保護者会時およびPTA主催大学見学）
- ・特定の資格取得を目的とした学科（看護学科、健康栄養学科）における体験授業の実施

ウ 海外協定校からの短期研修受入に伴う共同プログラムの開発

カナダ・ランガラカレッジからの日本研修の学生グループを受け入れた際、常磐大学高等学校を訪問し、日本文化体験を行った。

エ 短期留学や短期研修等参加者に対する事前研修プログラムの検討

国際交流語学学習センター職員が常磐大学高等学校内で留学相談窓口を設置し、3回に渡り、海外研修や海外留学参加を希望する生徒、保護者向けにアドバイスなどを行った。

オ 合同で実施する海外研修プログラムの検討

法人内各学校との合同海外研修の実施には至っていない。

② FDにかかわる教職員の学びの場の提供

ア FDフォーラム等への参加促進

具体的な方策等については、検討段階にあり、着手・実施に至っていない。

項目	目標	2024年度実績
国家試験合格率（公認心理師，管理栄養士，看護師，保健師）	公認心理師：80%以上，管理栄養士：90%以上，看護師：100%，保健師：100%	公認心理師：75.0%，管理栄養士：57.9%，看護師：95.4%，保健師：100%
教員試験合格率（私立等含む）	75%以上	71.4%（小中学校教諭）
公務員合格者数（教員除く）	40人以上	59人
語学試験学内表彰対象者数	145人以上	117人
開設科目に占めるSDGs関連科目の割合（履修系統図） （大学・短期大学合計）	40%以上	31.7%
外部資金獲得額（大学・短期大学合計）	22,000千円以上	14,727千円
科研費獲得件数	34件以上	37件

2 学生支援

(1) 学修支援の充実

① 個々の学修状況に対応した学修支援の充実

ア 学生のニーズの的確な把握および学修支援方策の評価・改善

全学学修サポート委員会の各WGにおいて検討を行った。学修支援検討WGにおいては、初年次学生に対してアンケートを実施し、効果検証および改善を進めている。

イ 「高等教育の修学支援新制度」の円滑な運用

学内の各種奨学金と日本学生支援機構奨学金を学生に案内するとともに、文部科学省による「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定を受け、383人（内、新規採用者120人）の学生が採用された。新規採用者については、ガイダンスの開催、学科別相談時間を設定するなどの対応を行った。

ウ 留学や外国語習得を志向する学生に対する語学学習支援

- ・Talk Time：外国語会話交流活動「Talk Time」を、対面で実施した。韓国語、タイ語、ベトナム語、ポーランド語、モンゴル語、ウクライナ語での各「Talk Time」については、交換留学生在が担当し、対面で実施した。
- ・Drop-in Lab：英語を母国語とする教職員による英語学習相談「Drop-in Lab」を実施し、留学希望者および英語の外部試験対策を希望する学生等を対象として、対面で語学学習支援を行った。
- ・フィリピン・バゴ市立大学学生による英語チュータープログラムを、春・秋 Semester 各6～8回（1回60分）行い、本学学生の英語学修の機会を提供した。
- ・留学準備・英語対策講座：交換留学制度等を利用して在学中の派遣留学を目指す学生や、外部英語試験（TOEFL iBT、TOEIC、英検等）で更なる級やスコアのアップを狙う学生を対象に、2月に4日間の留学準備・英語対策講座を開講した。
- ・TOKIWA Spirit：外国語によるプレゼンテーションイベントを開催した。
- ・学内 TOEIC（TOEIC IP）テスト：学内 TOEIC（TOEIC IP）テストのオンライン版を、春 Semester 期間に1回、秋 Semester 期間に3回実施し、TOEICによる英語力確認の機会を提供した。
- ・Tokiwa English Award：全学的な英語表彰制度「Tokiwa English Award」を年2回実施。CASEC、TOEIC、英検等で一定のスコア・級を取得した学生を表彰し、英語学習への持続的な意欲向上を図った。

② 教育資源の活用

ア ビデオ会議システムの活用（再掲）

ビデオ会議システムの機能を拡張するために Google Workspace for Education plus（有償版）を導入し、これまで利用できなかった録画機能を用いた反復学習やブレイクアウトルーム機能を活用したグループワークの実施および100名以上の会議が可能となった。

イ 図書館の利用促進

多くの企画展示やテーマ展示を実施し、その情報を SNS 等で発信した。

特に、以下の3点は2024年度に初めて取り組んだ企画である。

- ・「福 BOOK ろ〜」 司書等が分野ごとに選書した複数の書籍を、タイトルがわからないように袋詰めして展示、貸し出した。（2024年12月、2025年1月）
- ・「オレンジリボン運動〜子ども虐待のない世界へ〜」 短期大学幼児教育保育学科の「課題研究」とのコラボレーション。虐待防止意識の醸成を図る内容の書籍の展示。（2025年2月）
- ・「留学生が常磐大生に贈るおすすめの本」 国際交流語学学習センターとのコラボレーション。留学生が選書した日本の書籍の展示。（2024年9月～2025年2月）「常磐大生が留学生に贈るおすすめの本」も実施した。（2024年9月～11月）

(2) 学生生活支援の充実

① 学生の多様なニーズに対応した学生生活支援の充実

ア 学生のニーズの的確な把握および学生生活支援方策の評価・改善（学生満足度調査の実施を含む）

学生満足度調査（調査期間：2024年11月11日～11月29日、調査方法：WEB回答）により教育、学生支援・サービスに対する満足度を調査し、大学在籍者の61.4%から回答を得た。調査の結果、大学全体の総合満足度は86%であった。

② 課外活動および社会活動に対する支援

ア 課外活動への加入促進

在学生とサークル・団体等のつながりをつくり、課外活動への加入を促進するため、学生団体主催「GOENフレッシュ・フェス」の実施を支援した。2024年度の課外活動加入率は47.6%であった。

イ ときわ祭の支援（学生団体への参加促進と地域への広報）

2024年度ときわ祭では、新たな取り組みとして、キッチンカーの出店を認め、2店舗が出店、また職員有志による模擬店を出店した。しかしながら来場者数は2,843人であり目標を達成することはできなかった。

(3) 進路支援の充実

① 学生の自己実現に資する進路支援の充実

ア 学生のニーズの的確な把握および進路支援方策の評価・改善（学外団体等との連携による支援を含む）

近年の本学学生の県内就職割合が高いことから学生向けに様々な進路支援を行った。

- ・茨城県内の企業による「企業説明会」を前年の参加企業数を2倍にして開催した。
- ・2月開催の「学内合同企業研究会」について参加企業数を30社増やして開催した。
- ・「学内就職体験会」を開催し企業との連携を深めた。

イ 社会の状況に即した就職支援プログラムの充実

最近の就職活動早期化に伴い本学でも下記のような支援プログラムを行った。

- ・就活早期化に伴い「履歴書・ES実践講座」の実施時期を早めた。
- ・面接に特化した元人事部長が伝える「面接準備講座」を実施した。

ウ 学科担当者や外部カウンセラーによる相談体制の充実

- ・外部カウンセラーによる相談日数を増やしたことにより相談学生が増加した。
- ・看護学科に特化した学生個別面談を実施した。
- ・学科担当者やゼミナール教員が連携して学生を孤立しないように就職指導を実施した。
- ・未内定の学生へのアプローチを行いキャリア支援センターへ来てもらうように働きかけた。

項目	目標	2024年度実績
退学率	2.5%以下	2.88%
学修に対する満足度（卒業時アンケート）	90%以上	93.9%
語学学習支援企画への参加者数	360人以上	636人
情報メディアセンター図書貸出冊数（大学・短期大学（教員・学生）合計）	17,000冊以上	17,620冊
課外活動加入率	40%以上	47.6%
ときわ祭来場者数（大学・短期大学合計）	7,000人以上	2,843人
就職率	99%以上	98.1%
就職決定先満足度（進路状況調査）	90%以上	98.9%

3 地域連携・国際教育

(1) 地域連携活動の充実

① 生涯学習事業（リカレント教育を含む）の推進

ア オープンカレッジ（公開講座）の充実

教養講座・職業人講座・高大連携講座・小学生講座のほか、正規授業を開放する授業開放講座を実施し、幅広い学びの機会を提供した。2024年度は春・秋期合わせて31講座を開講した。

② 地方公共団体、企業、教育・研究機関、文化団体等との連携および交流活動の推進

ア 地域の自治体、産業界との連携・交流の推進

自治体等からの講師・委員派遣の依頼を受けて、それぞれの分野の専門的知見を有する本学教員を派遣し、地域課題解決に向けて連携・協働して取り組んだ。

また、健康栄養学科においては、地域の団体・企業と連携し、災害時のレシピ開発や県産食材を使用した商品開発等に取り組んだ。

③ 地域の課題解決に向けた地域連携プログラム等の充実

ア 地域課題の解決に向けた研究活動の促進および支援

広汎な地域社会の課題の解決に向けた研究を積極的に支援するための体制を整備することを目的として、地域課題の解決に向けた研究活動の促進および支援を掲げた。2024年度、具体的な取組にまでは至っていないが、研究助成運用基準規程の改定などにより支援体制を整えた。

(2) 国際交流活動の充実

① 海外の大学等との連携および交流活動の推進

ア 海外協定校を主とした国際交流プログラムの充実（オンラインを含む）

- ・海外研修プログラム：台湾を研修先とするプログラムを夏休みに実施。タイ、フィリピン、韓国、を研修先とするプログラムを春休みに実施。
- ・交換留学制度：当制度による派遣留学生として、2024年度は韓国へ4人、カナダ・ランガラカレッジへ1名派遣。協定校からは、2024年度は17名を受け入れた。
- ・協定校からの短期研修受入：5月に、協定校であるカナダ・ランガラカレッジ、7月に韓国・大邱カトリック大学日本文学科の日本短期研修の受け入れを行った。
- ・日本学生支援機構「海外留学支援制度（協定派遣）」：日本学生支援機構による「海外留学支援制度（2024年度）」に、本学の交換留学制度を申請し、協定派遣に係るプログラムが採択され、派遣留学生5人に奨学金が支給された。
- ・オンラインによる外国語等会話交流：アメリカの協定校の学生との日・英語会話交流および、オーストラリアのサウスオーストラリア大学の学生との日・英語会話交流をオンラインで実施した。
- ・ウクライナ避難民学生の受入：2022年度に受け入れたウクライナ避難民学生がその後正規留学生となり2025年3月に卒業した。

イ 海外協定校への教職員の派遣

飯野令子教授がポーランド・グダニスク大学へ日本語教師として招聘された。

② 留学生の受入れおよび派遣の推進

ア 外国人・帰国生選抜の見直し

大学入試委員会において、各入試制度実施後に改善点等を確認し、次年度入学者選抜の実施に向け検討し、2026年度入試より、次のとおり変更を行うこととした。

- ・外国人・帰国生選抜の出願資格において、日本語能力を確認する外部試験を追加

イ 交換留学生の学修成果の共有と公表

セメスターごとに留学報告会を行い、その成果を本学ホームページに掲載・公表した。

項目	目標	2024年度実績
オープンカレッジ参加者数（大学・短期大学合計）	400人以上（オンライン講座含む）	209人
地域連携活動数（大学・短期大学合計）	50件以上	54件
地域への委員等派遣数	50件以上	86件
留学派遣者数（交換留学，短期研修）	61人（13人，48人）以上	55人（5人，50人）

留学受入者数（交換留学，短期研修）	48人（16人，32人）以上	40人（17人，23人）
国際関連イベント参加者数	442人以上	446人

4 入試広報

(1) 入学者の受入れ

① アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜方法の改善・充実

ア アドミッション・ポリシーの点検・見直し

「教学マネジメント指針（追補）」（令和5年2月24日、中央教育審議会大学分科会）の趣旨を踏まえ、各学科等が主体となって、アドミッション・ポリシー（AP）の点検・見直しを行い、これに基づき入学者選抜を実施した。

イ 入学者選抜の見直し

大学入試委員会において、各入試制度実施後に改善点等を確認のうえ、次年度入学者選抜の実施に向け検討し、次のとおり変更を行うこととした。

《2025年度入試》

- ・転入学選抜Ⅰ期・Ⅱ期の新設

《2026年度入試》

- ・一般選抜および総合型選抜における募集人員の割合を変更
- ・総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期において出願前の手続きとして義務付けていた事前相談の廃止
- ・総合型選抜（課外活動）において出願前の手続きとして期日を定めて実施していた「練習会」を各強化部が計画して実施
- ・一般選抜Ⅰ期・Ⅱ期の名称変更と試験科目の変更
一般選抜Ⅰ期→一般選抜A方式（試験科目：国語、英語、数学、生物基礎）
一般選抜Ⅱ期→一般選抜B方式（試験科目：小論文）
- ・外国人・帰国生選抜の出願資格において、日本語能力を確認する外部試験を追加

② 高大接続を踏まえた入学者受入れプログラム等の充実

ア 入学前教育の充実

2024年度は、主に総合型選抜および学校推薦型選抜の合格者を対象に、課題（共通課題および学科別課題）、スクーリングおよび課題相談からなる入学前教育プログラム（2025年度入学者対象）を実施した。なお、共通課題において所定の基準に到達していることを「学びの技法Ⅱ」（1年次秋セメスター必修科目）の履修の要件とし、入学時に所定の基準に到達していない者に対しては、入学後も「基礎能力アッププログラム」の取り組み等を通じて、その達成を支援した。

(2) 広報活動の充実

① 教育目的・目標および学修成果の理解促進

ア 学修成果等の明示および周知に関する手法および評価指標等の点検・見直し

全学広報委員会と2024年発足した学生募集プロジェクトと連携しながら、学生募集の企画を検討し、さまざまな広報活動を展開した。また、前年度入試結果データと受験生の志望動向の分析結果を基に、学長、副学長および学部長を対象とした入試・広報関係報告会を4回実施し、広報戦略の見直しならびに学生受け入れの際の一助とした。

② 多様な広報媒体の活用による訴求力の向上

ア 広報活動の充実・多様化

- ・オープンキャンパス：来場型は各学科事前予約制とし、一堂に会して学科説明を行った。7月、8月は学生食堂の無料開放を行い、8月は千人を超える盛況だった。コロナ禍以来実施しているLIVE配信のオンラインオープンキャンパスを8月のみ実施したが前年の約半数の294人だったために、参加者は来場型にシフトしている。
- ・高校訪問：本学役員とアドミッションセンター広報室職員が6月から9月にかけて重点校を中心に訪問を行った。また、2月には新年度オープンキャンパスポスターを県内外の高校43校に配布した。さらに、高校教員対象の大学説明会を5月下旬に来校型で実施し、入試の現況など直接説明を行う機会を設けた。

- ・ホームページの充実：2020年度より継続して受験生応援サイト内にWEBオープンキャンパスページを展開し、受験生への広報に取り組んでおり、キャンパス紹介を目的とした360°VRキャンパスや学科紹介等を通年で掲載した。また、WEB広告とあわせることで、ページへの積極的な誘導を図った。
- ・SNSによる広報：若い世代を中心に広範な影響力を持つSNSによる広報を強化した。特に、インスタグラムは毎週1回投稿し、イベント後にはすぐに投稿するようにした。

項目	目標	2024年度実績
志願者数	1,500人以上(2025年度入試)	1,375人
入学定員充足率	100%以上	107.1%
オープンキャンパス参加者数(大学・短期大学合計)	3,000人以上	2,914人
HPアクセス件数(大学・短期大学合計)	1,000,000件以上	1,301,880件
学校説明会接触者数(大学・短期大学合計)	3,700件以上	6,138件
資料請求者数(大学・短期大学合計)	20,000件以上	29,869件
特別講座実施回数(大学・短期大学合計)	50件以上	38件

5 施設設備

(1) 教育環境の整備

- ① 見和キャンパスのキャンパスデザイン策定のための諸条件整理
キャンパスデザイン策定に向けて、必要な諸条件の整理を開始した。

(2) 安全安心な環境の維持

- ① キャンパスの環境整備(空調機更新(F棟地下1階～2階,D棟1階,K棟3階,茜梅寮,百蓄食堂),外壁修繕工事(G棟),Q棟中央エレベーター更新,トイレ改修(G棟4階,M棟4階,O棟3階,R棟2・3階))

学生および教職員にとって、より良好な教育・研究環境の実現を図るため、キャンパス内における各種環境整備を実施した。

ア 空調設備更新工事

経年劣化した空調機のうち、F棟地下1階～2階、D棟1階、K棟3階、茜梅寮、百蓄食堂の更新工事を実施した。

イ 外壁修繕工事

建物の維持保全のため、G棟の外壁修繕工事を実施した。

ウ Q棟中央エレベーター更新工事

設置後28年が経過したQ棟中央エレベーターの更新工事を実施した。

エ トイレ改修工事

G棟4階、M棟4階、O棟3階、R棟2・3階トイレの温水洗浄便座化改修工事を実施した。

- ② 見和キャンパス構内の緊急非常放送設備の更新

設置後8年が経過した見和キャンパス構内の緊急非常放送設備の更新工事を実施した。

- ③ 照明のLED化の実施

省エネルギーおよび環境保全の取り組みの一環として、D棟1階、I棟1階、K棟3階において照明のLED化工事を実施した。

項目	目標	2024年度実績
整備計画実行率	100%	100%

【常磐短期大学】

＜ディプロマ・ポリシー＞

本学の建学の精神および学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。

1. 教養科目を含む授業科目からなる学修を通じて、卒業後も自らの資質を向上させながら、社会的及び職業的自立を図るための基礎的能力を身につけた学生。(知識・技能、汎用的能力、態度・志向性)
2. 質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生。(汎用的能力、態度・志向性)
3. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題を捉え、問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際的感覚をそなえた学生。(汎用的能力、態度・志向性)

＜カリキュラム・ポリシー＞

本学の建学の精神及び学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、学科授業科目による教育課程を編成し、実施します。

1. 短期大学士として求められる教養科目を含む学科授業科目。
2. 学理に基づく高度な知識と実践的スキルとを習得できる学習プロセス。
3. 豊かな人間性を涵養し、環境に順応できる人材を育成するための適切な教育方法。

＜アドミッション・ポリシー＞

本学の教育理念、教育の目的等を理解し、社会や地域に貢献する意欲のある次の人を、多様な入試制度により求めます。

1. 高等学校等の教育で身につけてきた学力を基礎にして、社会の発展のために学理に基づいた高度な知識の獲得とスキルの習得を目標とする人。(知識・技能)
2. 人間として自ら真摯に生きる目的を考え、その実現に向けての取り組みを、的確に他者へ伝えられる人。(思考力・判断力・表現力)
3. 職業を通じた自立的な生き方や幼児教育・保育に関する様々な問題に関して人間性豊かに、創造的に取り組む意欲をもつ人。(主体性・多様性・協働性)

1 教育研究

(1) 教育の質の保証

① 全学的な教学マネジメントの確立

ア 学修成果の把握・評価に関する手法および指標等の点検・見直し

学校教育法施行規則第165条の2第2項の規定等を踏まえ、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー〈DP〉）と教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー〈CP〉）の一貫性の確保に特に意を用いつつ、学科および教務委員会等が主体となって、次の各事項に取り組んだ。

- ・単位修得状況（GPAの分布状況を含む）の振り返りを通じた「成績の評価方法・基準」の点検
- ・成績評価基準・評価指標（ルーブリック）の点検・見直し

(2) 教育の内容と方法の充実

① カリキュラム・ポリシーに基づく体系的かつ組織的な教育課程の編成

ア 履修系統図（図形式・表形式）の点検・見直し

上記（1）における点検・見直しの結果を踏まえ、学科および教務委員会等が主体となって、履修系統図（図形式・表形式）の点検・見直しに取り組んだ。

② 専門教育との関連を踏まえた教養教育

ア 教養教育の充実

単科になったことに伴い、2024年度から教養科目「心の充実」のテキストを、時代に即した内容に全面改訂した。また、学外での保育体験や野外活動等を取り入れ、幅広い知識と経験を得られる授業内容を工夫した。

イ 数理・データサイエンス・AI教育の充実

FD研究会において、「保育に求められるICTスキルとは」と題して、保育を学ぶ学生にICTスキルを身につけさせるために各教員がどのような授業を展開していく必要があるのか、示唆を得る機会を設けた。

③ ICTを活用した教育の充実

ア ビデオ会議システムの活用

ビデオ会議システムの機能を拡張するためにGoogle Workspace for Education plus（有償版）を導入し、これまで利用できなかった録画機能を用いた反復学習やブレイクアウトルーム機能を活用したグループワークの実施および100名以上の会議が可能となった。

イ 生成AIの効果的な活用方法の検討

図書館において、「AI時代の波に乗れ！」と題した生成AIの活用を促す展示を行った。

(2024年6月)

④ 国際感覚を育む教育

ア 国際文化研修の実施方法等の点検・見直し

単科になったことに伴い見直した結果、2025年度については、常磐大学の「海外研修」の韓国および台湾研修と合同開講することとした。2026年度以降については、独自のプログラムを展開できるよう検討を進めることとした。

イ 各授業科目におけるSDGsの推進にかかわる教育コンテンツ等の活用

履修系統図を、授業科目とSDGsの関連が明確になるように一部変更し、教育コンテンツの活用の推進に努めた。

(3) 研究活動の活性化

① 教員が不断に研究活動を行うための仕組みや環境の整備

ア 教育研究活動の活性化と外部資金獲得の促進

学内研究助成では、教学会議（2024年6月28日）において提案された「個人研究費の年間給付限度額等の見直しの方向性について」に基づき、「課題研究助成」を充実させることで、研究活動により一層の進展を促すため規程の一部変更を行った。主な変更点は次のとおりである。

- ・研究代表者として科学研究費助成事業へ申請し不採択となった研究で、次年度に同様の申請を行う研究を支援するための研究種目である「特別奨励研究助成」について、25年度以降、新たに「科研費獲得支援」と名称変更して支援を行うこと。
- ・大学教員の自由活発な研究を奨励するとともに、本学における教育の充実を目的として、個人研究費とは別に、25年度以降、「個別研究費助成」を設けること。

科学研究費助成事業では、制度等説明会の開催、個別相談等を通じて、申請の支援および奨励等に取り組んだ。

イ サバティカルの取得促進

希望者の積極的な把握、希望者に対する申請の促進、および適用者が担当している職務の取扱いの明示等を骨子とする基本方針（2022年度に提示）を踏まえ、全学的なサバティカルの取得促進に取り組んだ。

(4) 教育研究における法人内各学校との連携強化

① 常磐大学幼稚園との連携に基づく教育プログラムの開発

常磐大学・常磐短期大学の専任教員を講師として派遣し、わくわくチャレンジ（音楽・運動・造形・理科のプログラム）を実施し、在園児がより深い学びを得られるよう計画し実践した。また、その実践経験のフィードバックを、各担当教員が人間科学部教育学科・短期大学幼児教育保育学科の教育内容の充実のため活かした。

② 常磐大学高等学校との連携に基づく教育プログラムの開発

ア 体験授業の実施

短期大学において常磐大学高校との連携プログラムの検討（体験授業等）をしてきたが、2024年度において具体的な企画は実現していない。

③ FDにかかわる教職員の学びの場の提供

ア FD研究会等への参加促進

具体的な方策等については、検討段階にあり、着手・実施に至っていない。

項目	目標	2024年度実績
語学試験学内表彰対象者数	3人以上	0人
開設科目に占めるSDGs関連科目の割合（履修系統図）（大学・短期大学合計）	40%以上	84.3%
外部資金獲得額（大学・短期大学合計）	22,000千円以上	14,727千円
科研費獲得件数	4件以上	3件
常磐大学幼稚園との連携事業への教員派遣回数	40回以上	37回

2 学生支援

(1) 学修支援の充実

① 個々の学修状況に対応した学修支援の充実

ア 学生のニーズの的確な把握および学修支援方策の評価・改善

全学学修サポート委員会の各WGにおいて検討を行った。学修支援検討WGにおいては、初年次学生に対してアンケートを実施し、効果検証および改善を進めている。

イ 「高等教育の修学支援新制度」の円滑な運用

学内の各種奨学金と日本学生支援機構奨学金を学生に案内するとともに、文部科学省による「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定を受け、32人（内、新規採用者16人）の学生が採用された。新規採用者については、ガイダンスの開催、学科別相談時間を設定するなどの対応を行った。

ウ 留学や外国語習得を志向する学生に対する語学学習支援

- ・Talk Time：外国語会話交流活動「Talk Time」を、対面で実施した。韓国語、タイ語、ベトナム語、ポーランド語、モンゴル語、ウクライナ語での各「Talk Time」については、交換留学生在が担当し、対面で実施した。
- ・Drop-in Lab：英語を母国語とする教職員による英語学習相談「Drop-in Lab」を実施し、留学希望者および英語の外部試験対策を希望する学生等を対象として、対面で語学学習支援を行った。
- ・フィリピン・バゴ市立大学学生による英語チュータープログラムを、春・秋 Semester 各6～8回（1回60分）行い、本学学生の英語学修の機会を提供した。
- ・留学準備・英語対策講座：交換留学制度等を利用して在学中の派遣留学を目指す学生や、外部英語試験（TOEFL iBT、TOEIC、英検等）で更なる級やスコアのアップを狙う学生を対象に、2月に4日間の留学準備・英語対策講座を開講した。
- ・TOKIWA Spirit：外国語によるプレゼンテーションイベントを開催した。
- ・学内 TOEIC（TOEIC IP）テスト：学内 TOEIC（TOEIC IP）テストのオンライン版を、春 Semester 期間に1回、秋 Semester 期間に3回実施し、TOEICによる英語力確認の機会を提供した。
- ・Tokiwa English Award：全学的な英語表彰制度「Tokiwa English Award」を年2回実施。CASEC、TOEIC、英検等で一定のスコア・級を取得した学生を表彰し、英語学習への持続的な意欲向上を図った。

② 教育資源の活用

ア ビデオ会議システムの活用（再掲）

ビデオ会議システムの機能を拡張するために Google Workspace for Education plus（有償版）を導入し、これまで利用できなかった録画機能を用いた反復学習やブレイクアウトルーム機能を活用したグループワークの実施および 100 名以上の会議が可能となった。

イ 図書館の利用促進

多くの企画展示やテーマ展示を実施し、その情報を SNS 等で発信した。

特に、以下の 3 点は 2024 年度に初めて行った企画である。

- ・「福 BOOK ろ〜」 司書等が分野ごとに選書した複数の書籍を、タイトルがわからないように袋詰めして展示、貸し出した。(2024 年 12 月、2025 年 1 月)
- ・「オレンジリボン運動〜子ども虐待のない世界へ〜」 短期大学幼児教育保育学科の「課題研究」とのコラボレーション。虐待防止意識の醸成を図る内容の書籍の展示。(2025 年 2 月)
- ・「留学生が常磐大生に贈るおすすめの本」 国際交流語学学習センターとのコラボレーション。留学生が選書した日本の書籍の展示。(2024 年 9 月〜2025 年 2 月)「常磐大生が留学生に贈るおすすめの本」も実施した。(2024 年 9 月〜11 月)

(2) 学生生活支援の充実

① 学生の多様なニーズに対応した学生生活支援の充実

ア 学生のニーズの的確な把握および学生生活支援方策の評価・改善（学生満足度調査の実施を含む）

学生満足度調査（調査期間：2024 年 11 月 11 日〜11 月 29 日、調査方法：WEB 回答）により教育、学生支援・サービスに対する満足度を調査し、短期大学在籍者の 75.9%から回答を得た。調査の結果、短期大学全体の総合満足度は 93%であった。

② 課外活動および社会活動に対する支援

ア ときわ祭の支援（学生団体への参加促進と地域への広報）

2024 年度ときわ祭では、新たな取り組みとして、キッチンカーの出店を認め、2 店舗が出店、また職員有志による模擬店を出店した。しかしながら来場者数は 2,843 人であり目標を達成することはできなかった。

(3) 進路支援の充実

① 学生の自己実現に資する進路支援の充実

ア 学生のニーズの的確な把握および進路支援方策の評価・改善（学外団体等との連携による支援を含む）

- ・茨城県内の企業による「企業説明会」を前年の参加企業数を 2 倍にして開催した。
- ・いばらき民間保育施設就活応援セミナーを開催した。
- ・ひたちなか市公立保育所によるワークショップを開催した。

イ 学科と共同した就職支援プログラムの充実

- ・学科主催による OB・OG を招聘して就職ガイダンスを開催した。

ウ 学科担当者や外部カウンセラーによる相談体制の充実

- ・学生が希望する就職に向けて相談時間を優先的に確保した。
- ・学科担当者と指導教員が連携して学生を孤立しないように就職指導を実施した。
- ・未内定の学生へのアプローチを行いキャリア支援センターへ来てもらうように働きかけた。

項目	目標	2024 年度実績
退学率	2.5%以下	2.48%
学修に対する満足度（卒業時アンケート）	90%以上	95.6%
語学学習支援企画への参加者数	14 人以上	1 人
情報メディアセンター図書貸出冊数（大学・短期大学（教員・学生）合）	17,000 冊以上	17,620 冊

計)		
ときわ祭来場者数（大学・短期大学合計）	7,000人以上	2,843人
就職率	100%	100%
就職決定先満足度（進路状況調査）	90%以上	98.9%

3 地域連携・国際教育

(1) 地域連携活動の充実

① 生涯学習事業（リカレント教育を含む）の推進

ア オープンカレッジ（公開講座）の充実

教養講座・職業人講座・高大連携講座・小学生講座のほか、正規授業を開放する授業開放講座を実施し、幅広い学びの機会を提供した。2024年度は春・秋期合わせて31講座を開講した。秋冬期に幼児教育保育学科教員による潜在保育士を対象としたリカレント講座を企画したが、最少催行人員に満たず未開講となった。

② 地方公共団体、企業、教育・研究機関、文化団体等との連携および交流活動の推進

ア 地域の自治体、産業界との連携・交流の推進

自治体等からの講師・委員派遣の依頼を受けて、それぞれの分野の専門的知見を有する本学教員を派遣し、地域課題解決に向けて連携・協働して取り組んだ。

③ 地域の課題解決に向けた地域連携プログラム等の充実

ア 地域課題の解決に向けた研究活動の促進および支援

広汎な地域社会の課題の解決に向けた研究を積極的に支援するための体制を整備することを目的として、地域課題の解決に向けた研究活動の促進および支援を掲げている。2024年度、具体的な取組にまでは至っていないが、研究助成運用基準規程の改定などにより、支援体制を整えている。

(2) 国際交流活動の充実

① 海外の大学等との連携および交流活動の推進

ア 海外協定校を主とした国際交流プログラムの充実（オンラインを含む）

- ・海外研修プログラム：台湾を研修先とするプログラムを夏休みに実施。タイ、フィリピン、韓国、を研修先とするプログラムを春休みに実施。いずれも短期大学からの参加者はなし。
- ・協定校からの短期研修受入：5月に、協定校であるカナダ・ランガラカレッジ、7月に韓国・大邱カトリック大学日本文学科の日本短期研修の受け入れを行った。
- ・日本学生支援機構「海外留学支援制度（協定派遣）」：日本学生支援機構による「海外留学支援制度（2024年度）」に、本学の交換留学制度を申請し、協定派遣に係るプログラムが採択された。

イ 海外協定校への教職員の派遣

2024年度は該当なし。

項目	目標	2024年度実績
オープンカレッジ参加者数（大学・短期大学合計）	400人以上（オンライン講座含む）	209人
地域連携活動数（大学・短期大学合計）	50件以上	54件
地域への委員等派遣数	5件以上	13件
国際関連イベント参加者数	25人以上	8人

4 入試広報

(1) 入学者の受入れ

① アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜方法の改善・充実

ア アドミッション・ポリシーの点検・見直し

「教学マネジメント指針（追補）」（令和5年2月24日、中央教育審議会大学分科会）の趣旨を踏まえ、学科等が主体となって、アドミッション・ポリシー（AP）の点検・見直しを行い、これに基づき入学者選抜を実施した。

イ 入学者選抜の見直し

短期大学入試委員会において、各入試制度実施後に改善点等を確認のうえ、次年度入学者選抜の実施に向け検討し、入学定員の減員（120名から80名に変更）に基づき、各入試制度における募集人員の割合を変更した。

② 高大接続を踏まえた入学者受入れプログラム等の充実

ア 入学前教育の充実

2024年度は、主に総合型選抜および学校推薦型選抜の合格者を対象に、課題（共通課題および学科別課題）ならびにスクーリングからなる入学前教育プログラム（2025年度入学者対象）を実施した。

(2) 広報活動の充実

① 教育目的・目標および学修成果の理解促進

ア 学修成果等の明示および周知に関する手法および評価指標等の点検・見直し

全学広報委員会と2024年度に発足した学生募集プロジェクトチームと連携しながら、学生募集の企画を検討し、さまざまな広報活動を展開した。

② 多様な広報媒体の活用による訴求力の上

ア 広報活動の充実・多様化

- ・オープンキャンパス：来場型は各学科事前予約制とし、一堂に会して学科説明を行い、7月、8月は学生食堂の無料開放を行い、8月は千人を超える盛況だった。コロナ禍により実施しているLIVE配信のオンラインオープンキャンパスを8月のみ実施したが前年の約半数の294人だったために、参加者は来場型にシフトしている。
- ・高校訪問：本学役員とアドミッションセンター広報室職員が6月から9月にかけて重点校を中心に訪問を行った。また、2月には新年度オープンキャンパスポスターを県内外の高校43校に配布した。さらに、高校教員対象の大学説明会を5月下旬に来校型で実施し、入試の現況など直接説明を行う機会を設けた。
- ・ホームページの充実：2020年度より継続して受験生応援サイト内にWEBオープンキャンパスページを展開し、受験生への広報に取り組んでおり、キャンパス紹介を目的とした360°VRキャンパスや学科紹介等を通年で掲載した。また、WEB広告とあわせることで、ページへの積極的な誘導を図った。
- ・SNSによる広報：若い世代を中心に広範な影響力を持つSNSによる広報を強化した。特に、インスタグラムは毎週1回投稿し、イベント後にはすぐに投稿するようにした。

項目	目標	2024年度実績
志願者数	125人以上（2025年度入試）	86人
入学定員充足率	100%	69.2%
オープンキャンパス参加者数（大学・短期大学合計）	3,000人以上	2,914人
HPアクセス件数（大学・短期大学合計）	1,000,000件以上	1,301,880件
学校説明会接触者数（大学・短期大学合計）	3,700件以上	6,138件
資料請求者数（大学・短期大学合計）	20,000件以上	29,869件
特別講座実施回数（大学・短期大学合計）	50件以上	38件

5 施設設備

(1) 教育環境の整備

[大学に含めて記載]

(2) 安全安心な環境の維持

[大学に含めて記載]

項目	目標	2024 年度実績
整備計画実行率	100%	100%

【常磐大学高等学校】

1 教育研究

(1) 生徒の主体的・対話的な学びを引き出す授業・研究の推進

① 対話を軸とした授業の実現に向けた研究の充実

ペアワークやグループワークは多くの授業で見られ、協働的学習を軸とした授業展開が意識されている。しかし、深い学びをもたらす問いの設定について課題意識を持つ教員が多い。また、今年度は授業研究が教員個人に委ねられた感が強いため、教務部を中心に授業互見や校内研修、教科会議のなかでより良い授業の実現に向けた研究を活発化させたい。

② 観点別評価に関する課題の抽出と改善

教員の指導改善につながるよう「指導と評価の一体化」をテーマに、授業互見（10月）や教員研修（11月）を実施した。他教科の授業設計や評価方法について知見を広げたことは、生徒の学びの調整力を高める指導と評価の検討につながった。そのなかで主体性の評価についてはルーブリックを見直し、評価の公平性を高めることが課題である。

③ 個別最適な学びを支える ICT 教育の更なる充実

到達度テストや面談によって表出した学習課題に対して、スタディサプリの AI 機能を活用し、個々の学力に応じた学びが提供された。授業ではロイロノートが活用され、生徒一人ひとりの学習到達度に応じた学習支援が展開され、探究では情報収集や成果の発表に ICT 機器が活用された。

④ 生成 AI を活用した授業の実践

今年度、生成 AI クラウド「スタディポケット for TEACHER」を試験的に導入し、生成 AI を活用した授業実践を試行した。小テストや定期考査の作成、授業案の検討、アンケートの整理など有意義な活用法が確認された。一方で、利用者は 30 名程度に止まるなど限定的であり、具体的な取り組み事例を紹介して、利用の拡大を目指す。

(2) 未来を担う人材の育成を目指した教育改革の推進

① 教育課程の抜本的見直し

次期学習指導要領の改訂や私学としての特色を見据えた教育課程の検討に着手した。生徒の多様な学びに対応する柔軟性や文理融合型の学び、教職員の働き方改革を視野に入れて総合的に検討する必要性を認識し、次年度も継続していく。

② 管理職による教職員面談の充実

教員の資質・能力の向上を目的とした管理職面談を今年度も 2 回実施した。年度当初に設定した目標を確認し、取り組みの成果と課題について振り返る機会を設けた。面談資料となる自己申告書の記載内容の更なる充実や管理職の助言者としての資質の向上は今後の課題である。

③ 教職員の校外研修への参加の徹底

全ての教職員の資質・能力の向上を目的として、校外研修への参加を推奨し、管理職による面談においても受講の有無を確認した。昨年度より受講した教職員の割合は増加したが、約 60% に止まった。また、研修内容について教職員間での共有も弱いという課題が浮き彫りとなった。次年度は職員会議のなかで研修参加の意義について説明し、受講割合の更なる向上を目指す。

(3) 生徒の個性を伸ばす体系的な進路指導の充実

① 海外大学への進学支援体制の検討

マレーシアのテイラーズ大学と連携協定を締結し、国内大学と入試制度が異なる海外大学への進学環境を整備した。その結果、在学中に留学経験のある生徒1名がテイラーズ大学へ進学した。

② 進路指導計画に基づく体系的な進路支援の継続

昨年度大幅に見直した進路ロードマップに沿って、進路部と学年が連携した体系的な指導が実現した。大学入学者選抜において総合型選抜や学校推薦型選抜の比重が大きくなり、探究活動の評価など選抜内容も変化するなかで、進路指導計画の継続した点検が必要である。

③ 常磐大学・短期大学との連携の強化

2年生特進コース文系の大学特別講座は今年度も引き続き、笠間市と連携した探究学習を意識した展開となった。今年度は最終発表会に大学教授の参加・講評をいただくなど、より発展的なものとなった。また、進路部が中心となり、看護学部に加えて新たに健康栄養学科の体験学習（いずれも11月）が行われた。大学教員による模擬面接（8月）は受験生の進路実現に大きく寄与した。

④ 大学との学術連携協定の締結

2年生特進選抜コースの課題研究では茨城大学の学生によるメンター制度を開始した。大学生の支援によって研究の新たな視点や方法に気づくことになり、生徒の探究学習の充実につながった。理数教育の充実や多様な進路実現につながる、大学との連携の強化は次年度への課題となった。

項目	目標	2024年度実績
授業満足度	92%以上	89%
校外実施の教員研修への参加回数	全教員1回以上	全教員の60%
法人内学校との連携事業数	7件	7件
常磐大学・短期大学進学者数	在籍者の30%以上	27.6%
海外大学実合格者	1人以上	1人

2 生徒支援

(1) 規範意識の高揚とウェルビーイングの向上

① 教員と生徒が協働する学校の実現

コロナ禍で中断していた生徒評議会が再開され、年7回開催された。生徒会と生徒支援部の意見交換会は今年度も4回開催され、タブレット端末の利用ルールや制服の是非について話し合われた。部活動については代表者会議を定期的に開催し、教員と代表生徒の意見交換を通じて、より良い部活動の運営につなげている。

② 教員と生徒が互いを尊重する関係の更なる充実

挨拶や礼儀を大切とした指導は継続し、授業の開始や終わりのあいさつを徹底した。また、担任をはじめとする面談の機会を充実させ、生徒が相談しやすい環境を整えた。日々の生徒への声がけについては、生徒の努力や善行を積極的に評価することを意識し、自己有用感の育成を目指した。

(2) 特別活動の充実による資質・能力の育成

① 部活動運営方針の検討

昨今の猛暑にともなう熱中症対策を強化するため、炎天下における体育・部活動の運営方針を新たに設定し、部活動顧問会議で周知を徹底し、安心・安全な部活動運営の実現に努めた。県立高校で進む活動時間の厳格化については、私学としての特色も考慮した多様なあり方を検討する必要がある。

② 生徒会および委員会活動の活性化

委員会活動については、生徒総会のなかで委員長が報告を行うことで、活動内容が生徒間で共有されるようになったが、コースによって終業時間が異なるため活動日を設けることが難しく、生徒主体の活動に至っていない。また、教員も特別活動における生徒会・委員会活動の意義について再度確認することも必要である。

項目	目標	2024 年度実績
自己有用感に関する質問事項に対する肯定的評価	55%以上	70%
部活動加入率	75%以上	68%

3 地域連携・国際教育

(1) 資質・能力（ときわ力）の育成を目指した連携事業の充実

① 協力機関との連携強化と新規開拓

笠間市や水戸市とは探究学習を中心に連携を深め、笠間市大運動会への参加・協力や五軒小学校児童ボランティアなど新しい取り組みも始まった。各種ボランティアに参加する生徒も多く、地域社会への貢献意識の育成につながっている。

② 自己有用感を育む、地域に根ざした探究の実践

笠間市や水戸市と連携した探究学習では、最終発表会に市長・職員や大学教授に参加いただき、解決策を提案した。市長や大学教授からいただく講評のなかで、肯定的な意見を頂戴する機会が多く、生徒の自己有用感の高まりにつながっている。

(2) すべての生徒に開かれた国際教育の実現

① 海外留学生の受入体制の構築とインバウンド・プログラムの充実

今年度、3名の海外留学生を受け入れるにあたり、留学生の学校生活をサポートするバディ制度、非常勤講師による日本語教室を開始するなど受け入れ体制を整えた。留学生は部活動や学校行事にも積極的に参加したため、学級を越えて交流を深めることになった。

② 海外研修プログラムの進化と参加者の拡大

今年度は国際交流語学学習センターとの連携を深め、海外留学希望者に対するカウンセリングを3回実施した。留学や研修へ参加意識をもつ生徒は増加しているが、渡航費用の高騰によって実際の参加者は伸び悩んでいる。

③ 外国語運用能力の向上

2年生が受講しているDMM英会話に加えて、留学希望者や進学を決めた3年生の希望者対象にフィリピンのバゴ市立大学と連携した英会話プログラムを開始した。海外大学への進学要件となるTOEFLやIELTS対策を充実させることも検討課題である。

項目	目標	2024 年度実績
自治体や地域・企業との連携事業数	7件	7件
海外研修プログラムの参加者数	35人以上	29人
海外からの留学生受入数	5人以上	3人

4 入試広報

(1) 時代の変化に対応した広報活動の展開

① 広報対象を拡大した募集活動

今年度、新たに一般入試合格者を対象とした説明会を1月に実施し、参加者29名のうち14名が入学手続きを行った。また、中学1・中学2年生を対象とした学校説明会を3月に実施し、中学生48名の参加があった。

② HP・SNS・生成AIを活用した発信力の更なる向上

SNSはInstagramによる発信力を更に向上させ、フォロワー数は868人から1259人に伸び、水戸市内の私立高校で最も多い。今年度は更新内容が学校行事中心であったため、次年度は日常の学校風景も取り上げ、本校生徒の魅力発信力を高めていきたい。HPはトップページへの専用バナーの設置、掲載内容の変更を行い、情報発信力の改善につとめた。来年度はHPの管理、更新作業をより効率よ

く運営できる仕組みとして CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）が採用されるため、更新頻度を高めるなど、発信力の更なる向上に努めたい。また、生成 AI を説明スライドや広報物の作成におけるアイデアの創出に活用した。

（2）志願者の新規開拓につながる入試制度の検討

① 個性を評価する入試制度の検討

志願者の学びに対する姿勢を積極的に評価するため、検定の取得級に応じた科目試験への加点制度を開始した。次年度は高校授業料の実質無償化によって、私学を取り巻く環境が大きく変化する。この動きを生徒募集の強化につなげたい。

項目	目標	2024 年度実績
募集定員充足率	100%	89%
オープンスクール参加者数	2,300 人	2,390 人
秋季説明会参加者数	600 人	502 人
HP アクセス件数	30,000 件以上	43,050 件

5 施設設備

（1）学習環境の充実および部活動活性化のための施設整備、修繕

① 第1 体育館簡易冷暖房設備の設置

特に夏季の熱中症対策として、床置きエアコン4基を設置した。これまで、暑さ指数が高い時には中止を余儀なくされていた授業等を実施できる環境が整った。

② 第1 体育館バスケットゴール修繕

天井部設置の昇降装置付きバスケットゴールの駆動部が、老朽化により故障が目立つようになったため、修繕工事を行った。

項目	目標	2024 年度実績
整備（工事）計画実行率	100%	100%

【智学館中等教育学校】

1 教育研究

（1）個々の学力推移の分析を踏まえ、個別最適な学習指導による学力向上および希望進路の実現

国語・数学・英語の授業は習熟度別のクラスに分割し、それぞれの生徒の学力に見合った最適な授業を展開している。習熟度別編成は、学期毎に、定期考査や模擬試験により再編成し、生徒一人ひとりの学力状況を意識した個別最適な指導を実施した。さらに、これからの生徒達に必要な問題解決能力・論理的思考力を計ることができる「AiGrow」を導入し活用している。6年一貫教育の強みを生かし、将来について考える時間を前期課程生から意識させた。

（2）SDGs の理念を取り入れた探究活動の充実

SDGs の理念に立脚する探究学習では、問題発見・解決能力をはじめとして、論理的思考力・創造的思考力、情報収集・整理・分析技法などの非認知的能力向上に取り組んでいる。

3年次生は、水戸ユネスコ協会の指導を仰ぎ、梅染め商品開発に取り組んだ。5月には「水戸まちなかフェスティバル」に、8月には「偕楽園梅染ワークショップ」と「水戸黄門まつり」に、さらに、10月には常磐大学ときわ祭にブースを出し、梅染のワークショップや商品販売を行った。

4・5年次生は、これまで通り各自の関心のある分野に関連する外部コンテスト・コンクールへ参加した。その取り組みが、自らの希望する未来像をより具体的に思い描く道筋となり、進路実現への可能性を高めることとなった。

そして、年度末には生徒全員が探究の成果を発表する探究学習発表会(PBL Day)を実施した。

(3) オンライン授業による学びの保証

生徒全員が Chromebook を所持することで双方向授業の実践はもとより、天候不順による休校時や生徒が急遽自宅待機を余儀なくされた場合でも Google Meet により双方向の遠隔授業を行った。

全ての教員が自在に ICT 機器を使って効果的な学習活動ができるよう、さらに研鑽を積んでいる。

(4) 研修旅行の充実

前期課程では、3年次生が京都・奈良への「国内研修旅行」を実施した。奈良を加えたことで、日本の歴史をより深く学ぶことができた。

後期課程では、4年次生が進路研修として早稲田大学・東京理科大学を訪問した。大学を訪問することでより将来の進路について深く考える良い機会となった。

5年次生は10月に10泊12日のイギリスでの「海外研修旅行」を実施した。物価高騰・円安等で昨年度以上の研修費用の増加となったが、現地での研修内容を見直すなど適切な対応を行い、参加者全員が満足のいく研修となった。出発前に不安を抱えていた生徒も帰国後に見方・考え方や意識が大きく変化した様子が見られた、この研修が、本校の基本理念である「世界的視野で考え行動できる」人材の育成に大いに貢献している。

(5) 教員の校外研修への参加の促進

年1回の校外研修参加を義務付けたことにより、教員が多くの研修会に参加した。それにより様々な指導法や知識を習得することで指導力を向上させた。教科指導法を受けた教員は、新しくなった大学入学共通テスト対策の授業に生かしたり、ChatGPTやGoogleGeminiの研修を受けた教員は、授業内でAIを使用し利用法を紹介した。このような取組みが、生徒へも還元され、授業満足度の高さにつながっている。

項目	目標	2024年度実績
生徒授業満足度	90%以上	99%
教員の校外研修への参加回数	全教員1回以上	参加回数平均2.5回

2 生徒支援

(1) 生徒会等自主的活動への支援

特別活動部を中心として自主的活動への支援を行った。生徒会主催の行事である「智学館カップ」や「卒業を祝う会」を計画通り実施した。

また、ベルマーク活動や募金活動、さらに生徒会誌「けやきの記」の発行を行った。これらの企画運営によって生徒たちの自治活動はもちろん、社会性なども身につけさせることができた。

なお、今年度も生徒会による Instagram での情報発信を週1回のペースで行った。

(2) 各種ボランティア活動参加への支援

3年次生全員で、6月に特別養護老人ホームを訪問し、歌の披露や梅染についての説明を行った。

4・5年次生は、水戸市生涯学習課から紹介のあった以下のボランティア活動に参加をした。

5年次生では、6月と12月の街頭での「自転車通行指導」、6月に水戸市で開催された「環境フェア2024」、7月の介護講座、8月の「水戸黄門まつり サマードリームフェスタ」に参加をした生徒がいた。

4年次生では、10月の「シンいばらきメシ総選挙」や「NHKのど自慢」、12月の水戸市内の中学生を対象にした「数学学習相談会」に参加をした生徒がいた。

また、学外の活動であるが、5年次生で「水戸市サブリーダーズ会」「ひたちなかリーダーズクラブ」に参加し、それぞれの地域でボランティア活動をしている生徒がいる。

社会貢献や奉仕活動に興味を持つ生徒が多く、ボランティア活動への参加者が増加するよう支援した。

(3) 発達段階に応じた各種講演会の実施

発達段階に応じて講演会を実施した。まず、保健安全部による講演会として、3年次生対象の動物愛護に関する「いのちの教室」と「思春期講座」を、4年次生にはがん体験者による「いのちの学習会」を、そして6年次生には「薬物乱用防止教室」を行った。

生徒指導関連としては、全校生徒を対象としたLINE みらい財団による「情報モラル教育オンライン授業」と、JAFによる「交通安全教室」、さらには、「自殺者増加」の報道を受け「SOSの出し方」と題して教員によるパネルディスカッションを行った。また、5年次生を対象として「人権教育研修」を行った。

進路関係については、3年次生対象の後期課程進級に向けた進路講演会、4年次生対象の「早期キャリア講座」を行った。また、後期課程生を対象に進路講演会や進路ガイダンスを行った。

これらの講演会を通して、保健安全・生徒指導・進路について、発達段階に応じた適切な指導を行うことができた。

(4) 学年減に向けた学校行事の検討

学年数は減少しているものの、生徒会を中心に生徒達が工夫し、これまで同様の行事を実施した。また、生徒数が減少したことで、在校生62人全員での林間学校を初めて実施し、キャンプファイアーやバーベキューを行うなど年次を越えた交流ができた。

(5) 保護者・卒業生との連携強化

保護者総会・教育振興会総会を予定通り実施した。また、授業参観、智学館カップ、English Day、PBL Day等の学校行事にも多くの保護者の来校があった。

さらに、卒業生による「学習ガイダンス」や「大学での活動報告」を行った。

卒業生との連携を今後も強化していきたい。

項目	目標	2024年度実績
生徒ボランティア参加者率	50%以上	52.5%
薬物、交通、消費者、メディア等講演会	5回以上	10回

3 地域連携・国際教育

(1) 天体観測会の実施

今年度は常磐大学幼稚園児を対象とした観測会を行った。事前に天体について学んでから観測会に臨む園児がいて、教員も驚くほどの知識があり感心した。

(2) ユネスコスクールを通じた海外校との交流の継続

今年度から韓国のチョンド高等学校(Cheongdo High School)および台湾のダワン高等学校(Taiwan Municipal DaWan High School)との交流を実施した。特に、チョンド高からは10月に大量のカップラーメンや伝統的菓子、伝統的なおもちゃが送られてきて、11月に4年次生がZoomでの交流を行った。

また、12月には3年次生が韓国・台湾両校向けに梅染め団扇を作成した。作成した団扇は、両校に送付する予定である。

(3) 英語でのコミュニケーション能力の充実

ネイティブ英語教員によるオールイングリッシュの授業を展開し、生徒一人ひとりのスピーキング力やリスニング力の更なる向上を目指した。また、3年次生から5年次生まで授業内で年7回、自宅でも約7時間の受講が可能な海外在住の外国人講師による「オンライン英会話レッスン」を取り入れ、文法はもちろん日常会話や討論など、実践的な使える英語の習得に努めた。

さらに、年次ごとに与えられたテーマについて英語で発表するEnglish Dayを開催した。

(4) 海外留学生の受入

今年度より海外留学生の受入れを始めた。10月からは常磐大学への留学生7名が月2回、本校を訪問し、自国文化の紹介や、一緒にゲームをするなどして積極的に交流を図った。また、2025年1月からはイタリアからの留学生1名を受け入れている。本人からの「日本語を学びたい」との強い要望に応え、生徒達は英語と日本語を交えながらコミュニケーションを図っている。

項目	目標	2024年度実績
6年次生 TOEIC L&R 320点以上	40%以上	57%
年間受入留学生者数	2人以上	1人

4 広報

(1) HP や SNS を通じた、教育活動内容の発信

SNSでの情報発信を積極的に行った。内容については、学校での生徒たちの活動や日々の行事・日常の様子・部活動の結果など、楽しく活発に学校生活を送る様子が感じられるよう努めた。

発信回数については「3日に1度」を目標に、Facebook・Instagramを同時に発信した。

項目	目標	2024年度実績
SNS 発信数	100回以上	121回

【常磐大学幼稚園】

1 教育研究

(1) 個々の独自性を大切にし、主体性を十分に発揮できるような支援

日々の保育で一人ひとりが主体的な遊びや活動を選び取れる時間の確保を保障した。いろいろな場面で自信がもてる出来事が見つかり、園児も自分自身で気付いていけるよう支えていった。

(2) 幼保連携型認定こども園への移行に向け、保育所保育指針も踏まえた新たな教育課程の編成

常磐大学・常磐短期大学の専任教員を講師として、わくわくチャレンジ（音楽・運動・造形・理科のプログラム）を実施したほか、外部講師を招聘しての英会話プログラム：ハローイングリッシュや地域のスポーツクラブ（サッカー・バスケットボール）との連携プログラムを通して、より深い学びを得られるよう計画し実践した。また、伝統的な行事を皆で経験することを踏まえ、子どもたちの柔軟なイメージも活かした活動につなげられるよう努めた。

項目	目標	2024年度実績
「わくわくチャレンジ」開講回数 (理科・英語・音楽・美術・体育)	63回	64回
地域と連携した専門プログラム開講回数 (水戸ホーリーホック・水戸シルエラ・茨城ロボッツ)	15回	13回 水戸ホーリーホック 4回 水戸シルエラ 8回 茨城ロボッツ 1回
入園説明会	5回	5回

2 地域連携・国際教育

(1) 地域社会への貢献として、近隣の中高生の職場体験及びインターンシップ等の積極的な受け入れ

常磐大学高校からのインターンシップを受け入れた。2/4, 6, 7, 10, 25, 26の6日間（計124名）
近隣の中学生（水戸一中7名・見川中18名）の職場体験を受け入れた。

(2) 幼稚園・小学校の参観及び教員間での意見交換の機会を通して幼小接続・連携を強化

近隣の小学校（梅が丘小）の一年生教諭との交流、意見交換を通して幼少接続・連携の促進に努めることができた。

- (3) 法人内の各学校に留学に来ている海外の学生・生徒との交流を通して、園児の国際感覚の基礎を育成
常磐大学への留学生（カナダ・ランガラカレッジから来日した短期研修生）と幼児教育保育学科の教員とゼミ生を含めて、園児との交流の機会を設けた。

3 広報

- (1) 活動内容を含む情報発信の充実（HP、SNS、チラシなどの活用）

日々の活動や行事の様子を積極的にHPやFacebook・Instagramにアップし、情報発信を充実させた。

- (2) 園庭開放や施設見学の実施、育児に役立つ勉強会等の開催を通して本園の情報を発信し、地域の子育てを支援する

園庭開放は年間を通して13回実施（14回予定のうち1回雨天による中止）、育児に役立つ勉強会は3回実施した。保護者アンケートでのアイデアを活用し、より効果的な周知に努めた。

- (3) 入園者確保のための広報活動の充実

① 「子育て支援・多世代交流センター」「家庭的保育事業所」「小規模保育事業所」へのチラシ設置
「わんぱーく・みと」「はみんぐぱーく・みと」という子育て支援・多世代交流センター2カ所、家庭的保育事業所3カ所、小規模保育事業所15カ所に、パンフレットやチラシを配布した。

② 地域の公共施設や商業施設へのポスターの掲示

商業施設等へのポスターの掲示については働きかけた結果思うような結果は得られなかった。より可能性のある効果的な場所を掘り起こす必要がある。

③ Web 広告を利用し、地域の子育て支援施設の検索結果やSNS上で効果的にアピール

茨城県〔子ども・子育て支援情報公表支援システム〕において承認を受け、本園の施設情報の公表している。

項目	目標	2024 年度実績
入園定員充足率	100%	96.1%

4 施設設備

- (1) 教育環境の整備

① 幼保連携型認定こども園に必要な施設設備の整備

2025年1月25日～3月20日に実施。3月21日に水戸市の確認を経て、3月25日付け認可された。

V棟前に駐車スペースの拡充工事

② 壁クロス修繕工事（1階廊下）

こども園施設設備工事（保育室等）の工事に伴い実施した。

③ プロジェクターの更新（遊戯室）

第1回入園説明会（2024年7月20日）に向け更新を完了させた。

項目	目標	2024 年度実績
整備計画実行率	100%	100%

(2) 2024 年度主要行事

月	事 項
4月	2日 大学・短期大学・大学院入学式, 7日 高等学校入学式, 11日 幼稚園入園式, 26日 中等教育学校芸術鑑賞会(大相撲水戸場所)
5月	11日 中等教育学校保護者総会・教育振興会総会・学級懇談会, 18日 大学・短期大学オープンキャンパス, 高等学校PTA後援会総会, 30日 第1回理事会・第1回評議員会・第2回理事会, 31日 大学説明会
6月	9日 大学・短期大学オープンキャンパス
7月	5・6日 高等学校ときわ祭, 13日 大学・短期大学オープンキャンパス, 18日～19日 中等教育学校林間学校, 27～29日 高等学校オープンスクール
8月	13日 大学・短期大学オープンキャンパス, 13～25日 高等学校カナダ語学研修, 25日 大学・短期大学WEBオープンキャンパス
9月	8日 第1回入園説明会・みんなで遊ぼう, 18日 大学入学試験(総合型選抜Ⅰ期, 課外活動Ⅰ期), 短期大学入学試験(総合型選抜セミナー型), 21日 中等教育学校智学館カップ, 大学・短期大学オープンキャンパス, 24・25日 高等学校クラスマッチ, 26日 第2回評議員会・第3回理事会
10月	1日 幼稚園運動会, 5～16日 中等教育学校5年次海外研修旅行, 11日 幼稚園第2回入園説明会・みんなで遊ぼう, 6・12・26日 高等学校秋季学校説明会, 13日 大学院人間科学研究科春セメスター入学Ⅰ期入学試験, 大学院看護学研究科入学試験, 14～16日 中等教育学校3年次国内研修旅行, 19日 高等学校2年生学年懇談会, 19・20日 大学・短期大学ときわ祭, 大学・短期大学個別相談型オープンキャンパス, 25日 第3回入園説明会・みんなで遊ぼう, 26日 大学入学試験(総合型選抜Ⅱ期, 編入学Ⅰ期), 29日 高等学校芸術鑑賞会
11月	1日 幼稚園願書受付・入園考査・内定発表(1号認定児), 2日 高等学校1年生学年懇談会, 9日 大学・短期大学個別相談型オープンキャンパス, 12日 中等教育学校Walking Day, 16日 大学入学試験(公募制・指定校), 17日 短期大学入学試験(公募制・指定校)
12月	1～4日 高等学校2年生修学旅行, 3日 幼稚園発表会, 14日 中等教育学校English Day, 15日 大学入学試験(総合型選抜Ⅲ期, 課外活動Ⅱ期, 卒業生推薦, 社会人), 短期大学入学試験(総合型選抜Ⅰ期, 卒業生推薦, 社会人), 21日 幼稚園第1回新入園児保護者説明会
1月	7日 中等教育学校留学生受入開始, 9日 高等学校入学試験(推薦), 11日 中等教育学校ホームカミングデイ, 16日 高等学校入学試験(一般), 18・19日 大学入学共通テスト, 30日 第4回評議員会・第5回理事会
2月	4日 大学入学試験(一般入試Ⅰ期, 外国人留学生, 帰国子女), 短期大学入学試験(一般), 14日 高等学校水戸探究発表会, 15日 大学院人間科学研究科春セメスター入学Ⅱ期入学試験, 28日 中等教育学校卒業を祝う会・Farewell Party
3月	1日 高等学校卒業式, 2日 中等教育学校卒業証書授与式, 4日 大学入学試験(一般入試Ⅱ期・編入学入試Ⅱ期), 7日 高等学校1年生校外学習, 8日 中等教育学校PBL Day, 10日 高等学校笠間探究発表会, 大学入学試験(学園内Ⅱ期), 高等学校個人課題研究最終発表会, 17日 幼稚園卒園式, 20日 大学・短期大学卒業式・大学院学位授与式, 22日 幼稚園第2回新入園児保護者説明会, 27日 第5回評議員会・第6回理事会

3 財務の概要

(1) 事業活動収支計算書関係比率 【法人】

	比率	算式(*100)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	58.3	55.6	55.5	55.8	58.6	57.6
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	75.1	73.3	73.1	76.3	80.2	78.7
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	31.0	36.1	31.1	32.8	34.2	37.2
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	8.4	7.4	6.9	6.9	7.4	7.1
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	2.1	1.4	6.6	4.1	-0.2	-2.8
7	事業活動収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	97.9	98.6	93.4	95.9	100.2	102.8
8	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	107.3	103.1	98.9	105.5	107.6	108.9
9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	77.7	75.8	75.9	73.2	73.1	73.2
10	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.3
11	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
12	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	17.1	19.4	18.5	19.2	20.6	22.3
13	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	17.1	19.0	18.5	19.3	20.5	22.3
14	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	8.7	4.3	5.6	9.2	6.8	5.5
15	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	11.0	9.8	9.8	9.1	9.3	9.7
16	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	2.1	0.8	6.4	4.4	-0.3	-2.0
17	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	2.1	0.8	6.4	4.4	-0.4	-2.2

(1) - 1 事業活動収支計算書関係比率 【大学】

	比率	算式(*100)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	51.2	48.2	47.1	46.7	47.8	48.6
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	58.3	56.9	55.6	56.9	57.9	59.6
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	29.4	34.2	29.3	31.3	32.5	37.0
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	8.5	7.0	6.4	6.5	7.2	6.9
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	10.5	11.0	17.1	15.0	12.3	7.2
7	事業活動収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	89.5	89.0	82.9	85.0	87.7	92.8
8	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	99.5	92.5	86.5	93.6	99.4	97.6
9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	87.9	84.7	84.6	82.1	82.6	81.6
10	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.3	0.2	0.2	0.4	0.4	0.2
11	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
12	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	7.3	11.3	10.2	11.6	12.8	14.2
13	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	7.3	10.8	10.2	11.6	12.8	14.3
14	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	10.1	3.8	4.1	9.2	11.8	5.0
15	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	9.7	8.5	8.3	7.8	8.2	9.1
16	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	10.7	10.5	17.0	15.4	12.3	7.4
17	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	10.7	10.5	17.0	15.4	12.2	7.2

(1) -2 事業活動収支計算書関係比率 【短期大学】

	比率	算式(*100)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	59.4%	55.8%	58.8%	68.1%	74.1%	66.1%
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	69.8	68.1	70.5	94.8	96.1	83.2
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	25.8	32.2	29.6	28.7	33.9	40.0
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	10.0	9.6	9.6	9.2	11.3	9.6
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	5.4	3.0	2.0	-7.2	-20.1	-32.7
7	事業活動収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	94.6	97.0	98.0	107.2	120.1	132.7
8	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	116.2	117.4	121.7	109.4	126.0	141.4
9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	85.1	82.0	83.4	71.8	77.1	79.4
10	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1
11	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	8.6	11.6	12.9	10.9	11.8	17.0
13	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	8.7	11.1	12.9	11.0	11.9	17.0
14	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	18.6	17.4	19.5	2.1	4.7	6.1
15	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	10.3	9.3	9.3	7.8	8.9	9.5
16	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	4.8	2.4	2.0	-6.0	-19.5	-15.7
17	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	4.8	2.4	2.0	-6.0	-19.5	-15.9

(2) 貸借対照表関係比率 【法人】

	比率	算式(*100)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	77.6%	76.8%	74.9%	74.8%	75.9%	76.7%
2	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	22.4	23.2	25.1	25.2	24.1	23.3
3	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	2.8	2.9	3.0	3.0	3.2	3.3
4	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	3.6	3.4	3.4	3.0	3.7	3.0
5	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	93.6	93.7	93.6	94.0	93.1	93.7
6	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	-42.7	-43.3	-42.4	-41.6	-42.8	-44.8
7	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	83.0	82.0	80.1	79.6	81.5	81.8
8	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	80.5	79.5	77.6	77.1	78.8	79.1
9	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	620.0	681.9	738.9	839.5	646.3	766.8
10	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	6.4	6.3	6.4	6.0	6.9	6.3
11	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	6.9	6.8	6.8	6.4	7.4	6.7
12	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	647.9	719.6	774.6	884.5	846.6	820.9
13	退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
15	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価格(図書を除く)}}$	54.3	55.8	57.4	58.4	55.6	57.0
16	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	39.7	40.4	43.3	42.7	39.8	39.5

(3) 経営上の成果と課題

2024年度決算における事業活動収支は、事業活動収入計が60億円、事業活動支出計が61億7千万円となり、事業活動収支差額（基本金組入前当年度収支差額）は、1億7千万円の支出超過となった。支出超過の主な要因は、学生生徒等納付金収入の減少および大口事業案件への経費支出である。

事業活動収入の部では、大学において収容定員を超える学生を確保できたが、法人全体の学生生徒数減少により、学生生徒等納付金が2023年度と比較して1億3千万円減少した。しかし、経常費等補助金や寄付金等が予算額を上回り、事業活動収入全体では予算額から1億4千万円の増収となった。資産運用による利息収入も前年度より増加しており、事業計画に掲げた納付金以外の収入拡大を図れたことは成果として挙げられる。

事業活動支出の部では、大口事業案件として、見和キャンパスB棟解体工事に多額の経費と資産処分差額による特別損失を計上した。その他、情報メディアセンター、高等学校および中等教育学校共通の図書館システム更新や幼保連携型認定こども園設置に伴う園舎改修工事等、教育環境整備事業に多額の経費を投入した。一方、主要支出項目である人件費や教育研究経費、管理経費が一定の執行実績はあったものの予算額を下回り、事業活動支出全体では予算額から2億9千万円の支出減となった。

予算対比で事業活動収支差額の改善が図れたが、決算における均衡状況は2年連続の支出超過となり、収支均衡化に向けて適正な予算配分や執行管理など課題を残す結果となった。ただし、本学はここ20年以上借入金なしでの経営を継続しており、総体的な財務比率において総負債比率6.3%、短期的支払能力を示す流動比率766%、経営の安定性を示す純資産構成比率93.7%のとおり、健全な経営が行われていると言える。

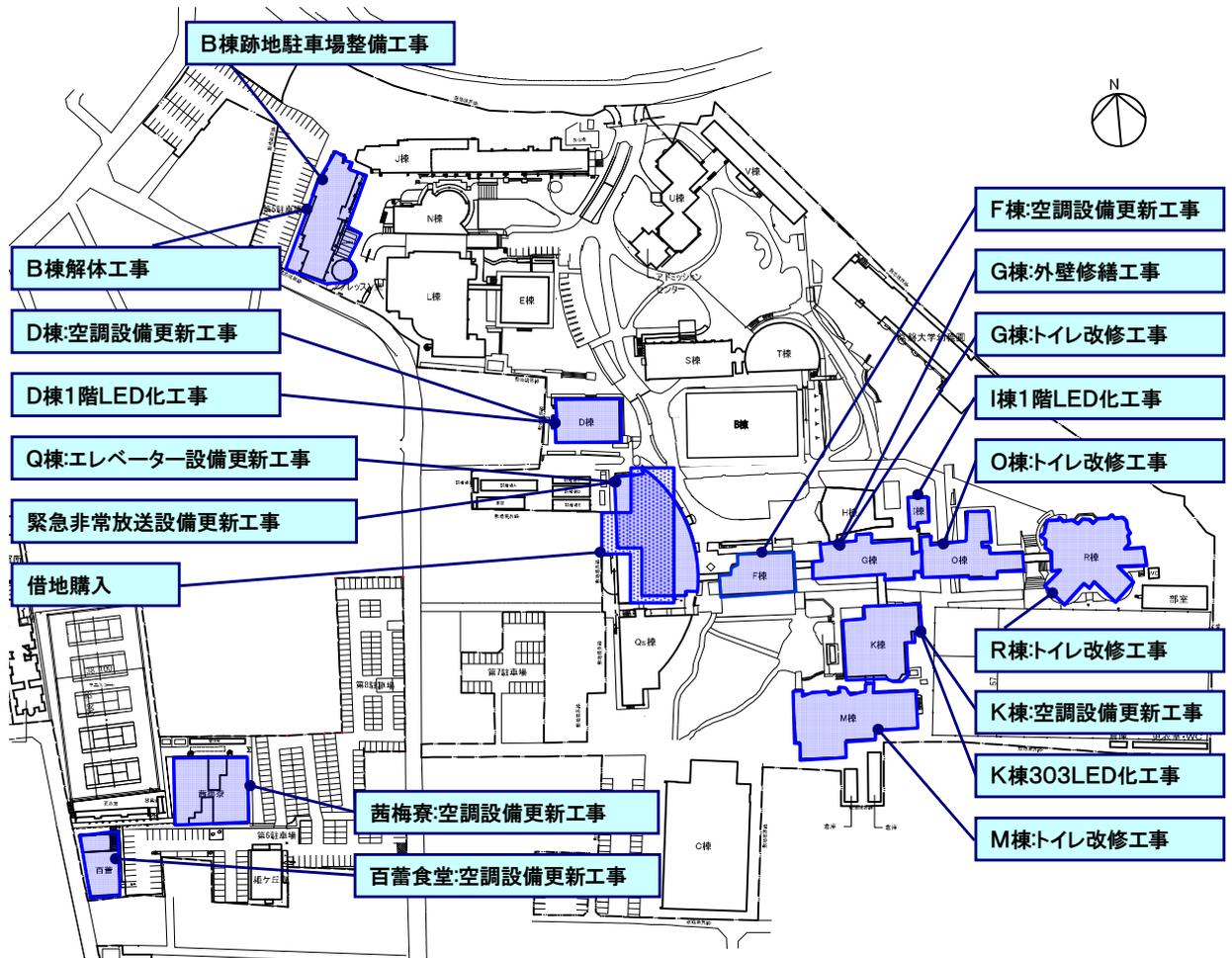
今後に向けての最重要課題は、学生生徒の安定的な確保である。本学の主たる財源である学生生徒等納付金収入は、志願者の減少や設置学校の募集停止の影響もあり、2022年度をピークに減収が続いている。大学では定員確保の継続、短期大学および高等学校では、定員未充足の改善が喫緊の課題であり、これらを改善するとともに、納付金以外の収入を更に拡大させていくことがより安定した財務基盤の確立につながると考えられる。

「TOKIWA VISION 2028」に掲げた中期計画を力強く推進するとともに、中期財務計画の点検・見直しを継続しながら、今後とも施設設備の計画的な整備と教育環境の充実に向けて取り組み、収支バランスが確保された適切な財務運営に努めていく。

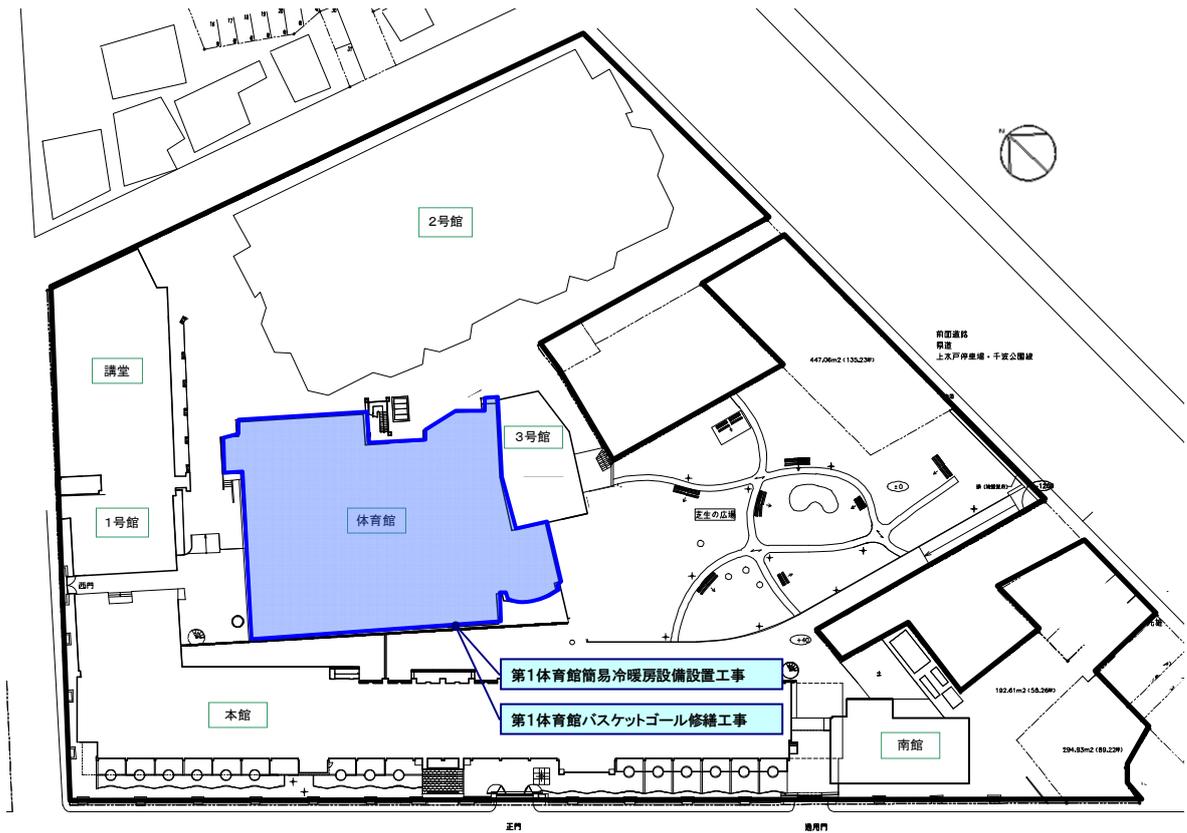
4 施設設備整備の概要

(1) 施設設備整備事業実施の位置図

① 大学・短期大学〔見和キャンパス〕



② 常磐大学高等学校



③ 幼稚園

